

25001

①人間福祉現場実習指導Ⅰ

S

鈴木壽恵 上續宏道 大西敏浩 広瀬香織 上田早記子

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

⑨社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

〔概要〕 この授業は専門職（社会福祉士・保育士等）実習を履修するための前提であり、効果的に学外現場実習を実施するために、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉施設の「見学実習」と、事前・事後指導を行う。

〔到達目標〕 福祉施設での見学体験学習を通して、福祉施設への関心を高め、その現状についての理解を深め、現場実習に必要な基礎知識と基本姿勢を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 オリエンテーション（授業のルール説明）レポート「志望動機と将来への希望」提出 | 高齢者福祉施設 |
| 2 個人面談（年間継続で実施）・個人マネージャックの実施および書類作成準備、写真撮影説明など | 9 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 高齢者福祉施設） |
| 3 ビデオによる学習（高齢者）グループ討議と感想（個別提出） | 10 基本カードの記入および実習後の自己評価について |
| 4 休暇中の課題（援助を体験する）の振り返り | 11 実習を省みてグループ討議①児童福祉施設について |
| 5 ビデオによる学習（障害者）およびグループ討議 | 12 実習を省みてグループ討議②障害者福祉施設について |
| 6 ビデオによる学習（児童）およびグループ討議 | 13 実習を省みてグループ討議③高齢者福祉施設について |
| 7 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 高齢者福祉施設） | 14 実習レポートの相互評価 |
| 8 見学実習（児童福祉施設 障害者福祉施設 | 15 夏季休暇中の課題表示（夏季学期で学んだこと） |

〔テキスト〕 河村匡由、『福祉の仕事ガイドブック』、中央法規

〔参考文献〕 福祉小六法 2009年版、保育福祉小六法 2009年版（株みらい）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート及び提出物 60%、受講態度 40%

25002

①人間福祉現場実習指導Ⅱ

W

鈴木壽恵 上續宏道 大西敏浩 広瀬香織 上田早記子

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

⑨社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

〔概要〕 この授業は専門職（社会福祉士・保育士等）実習を履修するための前提で、効果的に学外実習を実施するための前提となる。福祉サービスを提供する各種相談所等の見学実習と、その事前事後指導を行う。

〔到達目標〕 各種相談所等の見学実習を通して、相談機関への関心を高め、その現状についての理解を深める。又、学外実習に必要とされる基礎知識と基本姿勢を習得する。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 6 見学実習② | 12 グループ別個別指導① |
| 2 見学実習①にむけて事前学習 | 7 見学実習体験交流 | 13 グループ別個別指導② |
| 3 見学実習① | 8 見学実習③にむけて事前学習 | 14 グループ別個別指導③ |
| 4 見学実習体験交流 | 9 見学実習③ | 15 休暇中の課題提示、まとめ備考 個別面談通年で実施 |
| 5 見学実習②にむけて事前学習 | 10 見学実習体験交流 | |
| | 11 実習ノート提出・事後指導 | |

〔テキスト〕 河村匡由、『福祉の仕事ガイドブック』、中央法規

〔参考文献〕 福祉小六法編集委員会編 『福祉小六法』又は『保育福祉小六法』（株みらい）

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート及び提出物 60%、受講態度 40%

25003

①人間福祉講読演習（編入生）

S 平川 茂 茂木 洋 名和月之介

人間福祉講読演習 I

⑩人間福祉講読演習 I

〔概要〕 社会福祉に関する基本的な文献を読む。それを通して、「人間性に対する深い洞察を養い、福祉の意味を問い、それによって人間への理解と社会を見る眼を育てる」ことをめざす。

〔到達目標〕 福祉に対する理解の深化と文献を読み、レジュメを書き、発表し、議論するのに必要な基本的スキルの習得。

〔授業計画〕

1 全体オリエンテーション	6 日本人と老い②	11 新しい公共②
2 出会い①	7 人と社会①	12 福祉と変革①
3 出会い②	8 人と社会②	13 福祉と変革②
4 血と土	9 制度と実践	14 哲学の丘
5 日本人と老い①	10 新しい公共①	

〔テキスト〕 阿部志郎・河幹夫『人と社会』（中央法規）

〔参考文献〕 稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ』（有斐閣）

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に代わるレポート 50%、平常点 50%

25004

①人間福祉演習 I（編入生）

S 原 順子 逢坂隆子 倉田義之 慎 英弘
和田謙一郎 鳥海直美 平川 茂 茂木 洋

⑩人間福祉演習 I

〔授業題目〕 人間福祉について理解する。

〔概要〕 社会福祉の諸問題について演習形式により学習を進め、学生自らが課題を設定し、その研究成果を発表・検討することで、自らの研究の方向性を見出すための知識と方法を習得する。

〔到達目標〕 人間福祉学についての理解を深めるとともに、自らの研究課題と方向性を見出すための基本的知識と方法を理解する。

〔授業計画〕

1 ゼミによる学習の意義	6 発表・グループ討議等	11 発表・グループ討議等
2 学習の達成目標と方向づけ	7 発表・グループ討議等	12 発表・グループ討議等
3 発表・グループ討議等	8 発表・グループ討議等	13 発表・グループ討議等
4 発表・グループ討議等	9 発表・グループ討議等	14 発表・グループ討議等
5 発表・グループ討議等	10 発表・グループ討議等	15 評価とまとめ

〔テキスト〕 適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔参考文献〕 適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点 40%、自己評価を総合する。

25005

①人間福祉演習 II（編入生）

W 原 順子 逢坂隆子 倉田義之 慎 英弘
和田謙一郎 鳥海直美 平川 茂 茂木 洋

⑩人間福祉演習 II

〔授業題目〕 人間福祉について理解する。

〔概要〕 社会福祉の諸問題について演習形式により学習を進め、学生自らが課題を設定し、その研究成果を明確にするための知識と方法を習得する。

〔到達目標〕 人間福祉学の理解を深めるとともに、研究課題を明確にし、文献検索や研究計画の策定、研究手順の知識や方法を理解する。

〔授業計画〕

1 研究課題設定の方向性	6 発表・グループ討議等	11 発表・グループ討議等
2 研究手順等の理解	7 発表・グループ討議等	12 発表・グループ討議等
3 発表・グループ討議等	8 発表・グループ討議等	13 発表・グループ討議等
4 発表・グループ討議等	9 発表・グループ討議等	14 発表・グループ討議等
5 発表・グループ討議等	10 発表・グループ討議等	15 評価とまとめ

〔テキスト〕 適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔参考文献〕 適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔授業形態〕 講義・演習・発表・討論・ゼミの編成については学生の主体的選択を優先するとともに、ゼミ担当教育との合意において決定する。

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常点 40%、自己評価を総合する。

25008

①現代社会と福祉Ⅰ

S 近藤祐昭

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕現代社会における社会福祉制度の意義や理念と福祉原理の理解および福祉制度の発達について理解を深める。さらに、社会福祉の構造的把握を前提として、社会福祉の対象や社会福祉サービス体系と法制度、専門性と倫理について論じ、福祉政策とその課題を考える。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 10 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（社会福祉と人権） |
| 2 社会福祉の仕事 | |
| 3 現代社会における福祉ニーズ（高齢者） | 11 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（自立と自己実現） |
| 4 同上 | |
| 5 現代社会における福祉ニーズ（子ども） | 12 社会福祉の原理をめぐる理論と哲学（ノーマライゼーション） |
| 6 同上 | |
| 7 現代社会における福祉ニーズ（障害者） | 13 社会福祉の歴史 |
| 8 現代社会における福祉ニーズ（貧困） | 14 同上 |
| 9 社会福祉政策の課題 | 15 定期試験、まとめ |

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点 20 %

25009

①現代社会と福祉Ⅱ

W 近藤祐昭

〔授業題目〕社会福祉の意義と役割

〔概要〕現代社会における社会福祉制度の意義や理念と福祉原理の理解および福祉制度の発達について理解を深める。さらに、社会福祉の構造的把握を前提として、社会福祉の対象や社会福祉サービス体系と法制度、専門性と倫理について論じ、福祉政策とその課題を考える。

〔到達目標〕人間生活の中で、社会福祉が果たす役割と意義について理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 はじめに | 9 社会福祉の財政と費用負担 |
| 2 社会福祉運営の原理と枠組み | 10 社会福祉援助活動の担い手 |
| 3 社会福祉運営のシステム | 11 社会福祉の資格制度 |
| 4 社会福祉援助活動の意義 | 12 社会福祉の専門性と倫理 |
| 5 社会福祉援助活動の方法 | 13 社会福祉と関連政策 |
| 6 社会福祉関係法の構造 | 14 社会福祉の国際動向 |
| 7 社会福祉行政の組織と運営 | 15 定期試験、まとめ |
| 8 民間社会福祉サービスの組織と運営 | |

〔テキスト〕『新版・社会福祉学双書』編集委員会編、社会福祉概論、全国社会福祉協議会出版部

〔参考文献〕適宜プリントを配布する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点 20 %

25010

②福祉行財政と福祉計画

S

玉置好徳

〔授業題目〕福祉行財政と福祉計画の実際

〔概要〕福祉行財政の概要をふまえたうえで福祉計画の意義などについて考える。

〔到達目標〕福祉行財政と福祉計画の要点について説明できるようになる。

〔授業計画〕

第1回福祉行政の実施体制①（国の役割と地方との関係）

第2回福祉行政の実施体制②（都道府県と市町村の役割）

第3回福祉行政の実施体制③（福祉の財源）

第4回福祉行政の実施体制④（福祉行政の組織及び団体の役割）

第5回福祉行政の実施体制⑤（福祉行政における専門職の役割）

第6回福祉行政の動向

第7回福祉計画の意義と目的①（福祉計画の目的と住民参加の意義）

第8回福祉計画の意義と目的②（福祉行財政と福

祉計画の関係）

第9回福祉計画の意義と目的③（福祉計画の主体）

第10回福祉計画の主体と方法①（福祉計画の種類）

第11回福祉計画の主体と方法②（福祉計画の策定過程）

第12回福祉計画の主体と方法③（福祉計画の策定方法と留意点）

第13回福祉計画の主体と方法④（福祉計画の評価方法）

第14回福祉計画の実際

第15回試験とまとめ

〔テキスト〕河幹夫・小林良二・和気康太編『福祉行財政と福祉計画』（中央法規）

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験70%＋平常点30%

25021

②社会保障Ⅰ（編入生）

S

和田謙一郎

⑩社会保障論Ⅰ

〔授業題目〕わが国の社会保障制度の全体像

〔概要〕社会保障の全体像を明らかにするために、その概念、対象、歴史と発達過程、理論、行財政制度、他の諸制度との関係を論じ、検討していく。さらに、わが国の社会保障制度の体系・概要を把握していく。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕社会保障の全体像、その概念、対象、歴史と発達過程、理論、行財政制度、他の諸制度との関係、わが国の社会保障制度の体系・概要が理解できている。

〔授業計画〕

1 現代社会と社会保障、そこでの課題

2 第二次大戦まで

3 戦後から現在

4 戦前（以下、わが国）

5 戦後から高度成長期

6 高度成長期以後

7 少子高齢社会における社会保障の財源と費用

8 社会保障の体系

9 公的年金保険の概要

10 医療保険の概要

11 介護保険の概要

12 雇用・労災保険の概要

13 公的扶助、社会扶助、家族手当の概要

14 その他の関連制度について

15 定期試験

〔テキスト〕社会保障の手引（最新版）中央法規

〔参考文献〕参考文献は講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔〔単位認定の方法及び基準〕（試験やレポートの評価基準など）〕定期試験80%、平常の成績20%

25022

①社会保障Ⅱ（編入生）

W 和田謙一郎

②社会保障論Ⅱ

〔授業題目〕社会保障制度の具体的内容

〔概要〕公的年金や医療保険等を中心にわが国の社会保険制度を把握していく。加えて、民間保険と公的施策との関係についても検討し、さらには諸外国における社会保障制度の概要の把握にも努める。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕公的年金や医療保険等を中心としたわが国の社会保険制度、民間保険と公的施策との関係、諸外国における社会保障制度の概要が理解できている。

〔授業計画〕

- | | | |
|-----------------|------------------|----------------|
| 1 老齢年金制度（国民・厚生） | 7 国民健康保険制度 | 12 公的施策と民間保険Ⅱ |
| 2 障害年金制度（国民・厚生） | 8 後期高齢者医療保険制度 | 13 諸外国の社会保障制度Ⅰ |
| 3 遺族年金制度（国民・厚生） | 9 介護保険制度 | 14 諸外国の社会保障制度Ⅱ |
| 4 各種共済組合の年金 | 10 社会保障の実施体制と専門職 | 15 定期試験 |
| 5 医療保険制度（被用者）Ⅰ | | |
| 6 医療保険制度（被用者）Ⅱ | 11 公的施策と民間保険Ⅰ | |

〔テキスト〕社会保障の手引（最新版）中央法規

〔参考文献〕参考文献は講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）〕定期試験 80 %、平常の成績 20 %

25023

①公的扶助（編入生）

S 和田謙一郎

公的扶助論

②公的扶助論

〔授業題目〕最低限度の生活保障と自立支援

〔授業全体の内容の概要〕日本国憲法第 25 条で国民に保障されている「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する目的と現実について時代背景を念頭に置き検討し、生存権を具体化した法令、とりわけセーフティネットとされている生活保護法（生活保護制度）を中心に、その解釈と運用を理解していく。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕現代社会における低所得者層の生活実態、生活保護制度のその周辺にある諸制度、自立支援プログラムの意義とその実際を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|------------------------------|
| 1 はじめに | 実際 |
| 2 低所得者層の生活実態 | 9 生活保護制度における専門職の役割と実際 |
| 3 低所得者層を取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 | 10 生活保護制度における多職種連携、ネットワークと実際 |
| 4 生活保護制度の目的 | 11 福祉事務所の役割と実際 |
| 5 生活保護制度における 3 原理 | 12 自立支援プログラムの意義と実際 |
| 6 生活保護制度における 4 原理 | 13 低所得者対策と住宅政策 |
| 7 生活保護制度における 8 原理 | 14 ホームレス対策 |
| 8 生活保護制度における組織及び団体の役割と | 15 定期試験 |

〔テキスト〕小林迪夫編著『公的扶助論（最新版）』（建帛社）

〔参考文献〕生活保護手帳（中央法規、最新版）

〔授業形態〕講義

〔[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）〕定期試験 80 %、平常の成績 20 %

25024

②地域福祉 I (編入生)

S 玉置好徳

地域福祉論 I

⑩地域福祉論 I

〔授業題目〕 地域福祉の基本を理解する

〔概要〕 地域福祉に関する理念の理解を基盤として、地域住民を主体とした地域福祉の展開における各種社会資源の役割や機能を学ぶ。また、地域福祉の現状の理解をした上で、地域福祉計画の策定プロセスと地域福祉推進の実際を学ぶ。

〔到達目標〕 地域福祉に関する理念が地域福祉の発展過程を通して具体的内容として理解できること。そこでの地域住民、各種団体、専門機関の役割や公私協働について理解できること。地域福祉計画の意義・内容とともに、地域福祉の現状や今後の推進方法が理解できること。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 地域福祉の定義、概念、地域福祉の範囲 | 福祉教育) および財源 (構成と調達) |
| 2 地域福祉の理念 (人権尊重、権利擁護、社会的包摂、自立支援、地域生活支援、地域移行など) と地域福祉の役割、意義 | 10 地域福祉における社会福祉協議会の組織・機能役割、および地域福祉における行政機関 (市町村) の役割・機能 |
| 3 地域における実践事例や地域福祉の現状から学ぶ現代社会におけるコミュニティと地域福祉 | 11 地域における社会資源の実際 (サービス提供組織とその運営方法: 社会福祉法人、NPO 法人) |
| 4 地域福祉理念の発達および地域福祉の発展過程、歴史的展開 | 12 地域における社会資源の実際 (サービス提供組織とその運営方法: 民生委員・児童委員・ボランティア組織、その他の住民主体の組織) |
| 5 地域福祉の構成と地域福祉推進の基本的な考え方 | 13 地域における社会資源の実際 (専門職や地域住民の役割の実際: 社会福祉士、社協の地域福祉活動専門員、介護相談員、認知症サポーターなど) |
| 6 地域福祉推進における住民参加の意義 (地域福祉の中での主体と対象とその現代的意義) | 14 地域福祉 (推進) における行政機関、民間機関、専門職、地域住民の関係性 (公私協働) と連携のあり方 |
| 7 地域福祉推進における専門職や専門機関の役割・機能とその実際 (社会福祉法の内容を含む) | 15 まとめ (地域福祉の現状と課題) と定期試験 |
| 8 地域福祉計画の意義と内容 (策定から実施まで) | |
| 9 地域福祉推進のための人材 (構成と動員、福祉教育) | |

〔テキスト〕 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編『地域福祉の理論と方法』(中央法規)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 (70%)、小レポート (10%)、平常点 (受講態度等) (20%)

25025

②地域福祉Ⅱ（編入生）

W 玉置好徳

地域福祉論Ⅱ

⑩地域福祉論Ⅱ

〔授業題目〕 地域福祉の推進方法を学ぶ

〔概要〕 地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関の連携を含む）の意義と方法およびその実際について学ぶ。地域福祉の推進方法について、地域活動事例を通して具体的に学ぶ。

〔到達目標〕 地域福祉に資する地域住民・多職種・多機関のネットワーキングの意義と方法が具体的に理解できる。地域福祉の推進方法としての社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービス評価方法などが具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 地域福祉を支える要素 | 9 地域活動事例を通して学ぶ社会資源の活用・調整の実際 |
| 2 地域の理解・地域アセスメント | 10 地域活動事例を通して学ぶ社会資源の開発の実際 |
| 3 地域の福祉ニーズの把握方法 | 11 地域活動事例を通して学ぶ地域トータルケアシステムの実際 |
| 4 地域福祉におけるネットワーキングの意義と目的 | 12 地域トータルケアシステムの要素と地域福祉 |
| 5 社会資源の活用・調整・開発の意義と目的 | 13 地域における福祉サービスの評価方法1 |
| 6 地域トータルケアシステムの構築の意義と目的 | 14 地域における福祉サービスの評価方法2 |
| 7 地域活動事例を通して学ぶニーズの把握方法 | 15 まとめと定期試験 |
| 8 地域活動事例を通して学ぶネットワーキングの実際 | |

〔テキスト〕 市川一宏・上野谷加代子・大橋謙策編『地域福祉の理論と方法』（中央法規）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験（70％）、小レポート（10％）、平常点（受講態度等）（20％）

25026

②心理学概論

S 広瀬香織

〔授業題目〕 心理学の基礎知識

〔概要〕 心理学理論に基づく人間理解、および心の健康や心理的支援について学び、日常生活や福祉・保育の仕事の実際と結びついて理解することを目的とする。

〔到達目標〕 心理学の基礎知識および心理的支援の基礎について習熟する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 心と脳 | 9 コーピングとストレスマネジメント |
| 2 情動・情緒・欲求・動機づけ | 10 心理検査①（人格検査・適性検査） |
| 3 感覚・知覚・認知 | 11 心理検査②（発達検査・知能検査） |
| 4 学習・記憶・思考 | 12 カウンセリングの概念 |
| 5 集団・適応・人と環境 | 13 カウンセリングとソーシャルワークの関係 |
| 6 発達段階・発達課題 | 14 心理療法の概要と実際 |
| 7 愛着の発達・対象喪失 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 ストレッサーとストレス症状 | |

〔テキスト〕 鈴木 清、『人間理解の科学—心理学への招待—』、ナカニシヤ出版

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 60％、小テスト 40％

25027

②社会学概論

S 平川 茂

〔授業題目〕社会理論と社会システム

〔概要〕まず社会学の基本概念（社会的行為、社会システムなど）と社会理論（相互作用主義、機能主義）を理解し、それを基礎に家族、地域、社会問題などを理解する。

〔到達目標〕社会学の基本概念と社会理論を用いて考えることを通して、現代社会を深く理解できるようになること。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 社会的行為と相互行為 | 9 地域①都市と郊外 |
| 2 社会関係と社会集団および組織 | 10 地域②条件不利地域 |
| 3 社会構造と社会システム | 11 生活の捉え方 |
| 4 法と社会システム | 12 社会問題の捉え方 |
| 5 経済と社会システム | 13 社会問題①逸脱と社会的排除 |
| 6 社会変動と人口 | 14 社会問題②社会的ジレンマ |
| 7 家族①形態と機能 | 15 定期試験 |
| 8 家族②家族問題 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕岩上真珠他編『ソーシャルワーカーのための社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、平常点 50 %

25029

②医学一般

W 瀧藤尊照

〔授業題目〕社会福祉士・精神保健福祉士の基礎知識

〔概要〕人間の成長・発達、リハビリテーション医療の概要、国際生活機能分類（ICF）、人体の構造・機能、疾病・障害、そして健康づくり・保健医療対策について講述します。又、社会福祉士や精神保健福祉士にとって何故一般的の医学知識が必要かを考え、クライアントのもつ課題点を理解し、より良い援助を提供できるよう努力すると共に、地域社会での健康増進や福祉を進めることができるよう、医学一般に通じていくことを目的とします。

〔到達目標〕社会福祉士や精神保健福祉士として、人の日常生活の全体を「人」と「環境」とその「相互作用 transaction」としてとらえ、日常生活を営むのに支障がある人の福祉に関して、相談・援助を行うことができるようになることを到達目標とします。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 人間の成長・発達（精神分析理論、生涯発達視点の重要性） | 8 人体の構造・機能（循環器、泌尿器、感覚器官） |
| 2 人間の成長・発達（発達段階と課題） | 9 人体の構造・機能（内分泌系、自律神経系） |
| 3 人間の成長・発達（障害児者の発達の理解） | 10 国際生活機能分類（ICF）・リハビリテーション医療の概要 |
| 4 利用者の生活と心理的援助（生活の場、ストレス、心理的援助） | 11 疾病（がんとその予防、先天性疾患、老化） |
| 5 医学一般（医学の目的、医学知識の必要性、臨床医学） | 12 疾病（感染症とその対策） |
| 6 人体の構造・機能（人体全体の構造と機能） | 13 疾病（精神疾患） |
| 7 人体の構造・機能（呼吸器、消化器） | 14 疾病（神経疾患、難病） |
| | 15 保健医療対策の現状（健康づくり、臓器移植） |

〔テキスト〕『社会福祉士の基礎知識』（誠信書房）

〔参考文献〕社団法人日本社会福祉士養成校協会『社会福祉士のための基礎知識Ⅲ』（中央法規出版）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 90 %、その他平常点など 10 %

25044

①更生保護制度（編入生）

W

齊藤素子

②司法福祉論

〔授業題目〕司法福祉プロセス

〔概要〕刑事事件、少年事件、家族問題に関する司法プロセスおよび司法福祉を担う諸機関の連携の在り方について学習する。

〔到達目標〕司法プロセスを通して実現される福祉援助に必要な知識を習得する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|------------------------|
| 1 司法福祉とは | 8 医療観察制度について |
| 2 刑事事件の動向 | 9 少年非行をめぐる司法福祉の実際 |
| 3 少年事件の動向 | 10 離婚事件と司法手続 |
| 4 刑事事件手続きの流れ | 11 児童虐待事件と司法手続 |
| 5 少年事件手続きの流れ | 12 ドメスティック・バイオレンスと司法手続 |
| 6 刑事司法、少年司法分野で活動する組織、団体及び専門性 | 13 扶養事件と司法手続 |
| 7 更生保護制度について | 14 成年後見事件と司法手続 |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕『更生保護制度』中央法規

〔参考文献〕村尾泰弘、廣井亮一編『よくわかる司法福祉』ミネルヴァ書房

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

25046

①介護福祉（編入生）

S

信田光子

介護概論

②介護概論

〔授業題目〕社会福祉士としての介護の視点

〔概要〕「介護とは」を考えていく。介護を必要とする人々の生活実態や社会情勢、関係する法制度を把握しながら、介護の概念、介護技法、介護予防などを理解する。人間観や倫理の視点も学び深める。

〔到達目標〕介護を必要とする人々の生活実態、取り巻く環境、介護の意味や目的を理解し、介護過程での技法やそれらに伴う人間観が習得できた。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 介護という用語の歴史的展開と、介護の概念や介護を必要とする対象を把握するための視点とその方法及び理念について理解 | 9 介護の技法と基本的な考え方を理解②（移動、移乗、福祉用具の活用、福祉用具専門員の役割） |
| 2 事例を用いて介護の実態を理解①（家族介護力の低下、介護者の実態などを含む） | 10 介護の技法と基本的な考え方を理解③（認知症ケアの基本的考え方と実際） |
| 3 事例を用いて介護の実態を理解②（高齢者虐待を含む） | 11 介護の技法と基本的な考え方を理解④（支援計画、介護支援専門員の役割、訪問介護員の役割） |
| 4 介護需要、介護の役割、多職種との連携について | 12 介護の技法と基本的な考え方を理解⑤（終末ケアの基本的考え方と実際） |
| 5 介護の原則、機能、過程及び範囲、介護活動の場での特徴を理解 | 13 介護の技法と基本的な考え方を理解⑥（介護のための住環境） |
| 6 介護保険制度など関係法規とその運用状況について | 14 これからの介護について及び介護における人間観と職業倫理を考える |
| 7 介護予防の必要性や介護予防プランについて | 15 定期試験とまとめ |
| 8 介護の技法と基本的な考え方を理解①（衣・食・住、及び排泄、服薬における介護技法の安全、快適、安寧など） | |

〔テキスト〕授業時に紹介する。

〔参考文献〕適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験（60 %）、レポート（30 %）、平常点（10 %）

25047

①障害者福祉（編入生）

S 原 順子

障害者福祉論 I

②障害者福祉論 I

〔概要〕 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解するとともに、ノーマライゼーション、インクルージョンといった障害者福祉の基本的理念や、障害者福祉制度の発展過程を学ぶ。更に相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

〔到達目標〕 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要について理解する。障害者福祉制度の基本的理念と発展過程を理解し、障害の概念と障害者の実態について修得する。障害者自立支援法の概要を理解し、組織及び団体と専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワーキングを理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要 | 8 知的障害者福祉法の概要 |
| 2 障害者福祉の基本的理念の展開と障害者福祉制度の発展過程 | 9 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 |
| 3 障害者の統計的実態と障害の概念と人権 | 10 発達障害者支援法の概要 |
| 4 障害者自立支援法の概要と組織及び団体の役割と実際 | 11 障害者基本法の概要 |
| 5 障害者自立支援法における専門職の役割と実際、多職種連携、ネットワーキングと実際 | 12 心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律の概要 |
| 6 相談支援事業所の役割と実際 | 13 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律の概要 |
| 7 身体障害者福祉法の概要 | 14 障害者の雇用の促進等に関する法律の概要 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点等 25 %

25048

①児童福祉（編入生）

S 萩原總一郎

児童福祉論

②児童福祉論 I

〔授業題目〕 児童家庭福祉について理解する

〔概要〕 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解するとともに、児童家庭福祉制度の発展過程や児童家庭福祉に係る法制度、児童の権利について理解する。

〔到達目標〕 児童・家庭を取り巻く社会環境の実情や福祉ニーズとともに、これまでの児童・家庭福祉制度の発展過程と法制度を理解し、あわせて児童の権利について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|------------------------|
| 1 児童・家庭の生活実態と社会情勢の変化 | など) |
| 2 児童・家庭福祉制度の発展過程 | 8 児童・家庭福祉制度の実施体制 |
| 3 児童家庭福祉の理念と児童の権利 | 9 組織及び団体の役割と実際 |
| 4 児童・家庭福祉ニーズとその把握方法 | 10 専門職の役割と実際 |
| 5 児童福祉法の概要 | 11 多職種連携、ネットワーキングと実際 |
| 6 児童福祉法以外の主要な法律の概要（児童手当法、母子保健法など） | 12 児童福祉施設・里親の役割と実際 |
| 7 児童福祉法以外の主要な法律の概要（少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法 | 13 児童相談所の役割と実際 |
| | 14 相談援助活動に必要な児童・家庭福祉制度 |
| | 15 定期試験およびまとめ |

〔テキスト〕 柏女霊峰著『子ども家庭福祉論』（誠信書房）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 試験 90 %、平常の成績 10 %

25049

②相談援助の基盤と専門職Ⅰ

S 鳥海 直美

〔概要〕 身近な生活問題に引き寄せながらソーシャルワーカー（相談援助専門職）の役割や意義を学び、その実践の拠り所となる専門職倫理について理解を深めることを通して、人間・生活・社会をまなぐ視点を培う。

〔到達目標〕 ①現代社会におけるソーシャルワーカーの役割を理解する。②ソーシャルワークの歴史的な形成過程を理解する。③ソーシャルワーカーが志向する価値・理念・倫理を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 相談援助の理念① |
| 2 社会福祉士／精神保健福祉士の役割と意義① | 10 相談援助の理念② |
| 3 社会福祉士／精神保健福祉士の役割と意義② | 11 相談援助の理念③ |
| 4 相談援助の定義と構成要素① | 12 ソーシャルワーカーの倫理綱領① |
| 5 相談援助の定義と構成要素② | 13 ソーシャルワーカーの倫理綱領② |
| 6 相談援助の形成過程① | 14 ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ |
| 7 相談援助の形成過程② | 15 定期試験および解説 |
| 8 相談援助の形成過程③ | |

〔テキスト〕 編：岩間伸之、福島喜代子：『新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職』：中央法規出版

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 受講態度など平常点 30 %、定期試験 70 %

25050

②相談援助の基盤と専門職Ⅱ

W 鳥海 直美

〔概要〕 さまざまな生きづらさを抱えた人間とそれを取り巻く環境に対して、多元的にアプローチするソーシャルワークの視点を学ぶことを通して、援助関係のあり方や専門職としてのあり方について考えを深める。

〔到達目標〕 ①コミュニティソーシャルワークの視点を理解する。②ジェネラル・ソーシャルワークの特質を理解する。③ソーシャルワーカーの専門的機能について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 11 総合的かつ包括的な援助における専門的機能① |
| 2 コミュニティソーシャルワークの視点① | 12 総合的かつ包括的な援助における専門的機能② |
| 3 コミュニティソーシャルワークの視点② | 13 総合的かつ包括的な援助における専門的機能③ |
| 4 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質① | 14 ゲストスピーカー
ーソーシャルワーカーの実践に学ぶ |
| 5 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質② | 15 定期試験および解説 |
| 6 対象とニーズの把握 | |
| 7 社会資源の主体的活用 | |
| 8 ソーシャルワークの媒介機能 | |
| 9 相談援助専門職の概念と範囲① | |
| 10 相談援助専門職の概念と範囲② | |

〔テキスト〕 編：岩間伸之、福島喜代子：『新・社会福祉士養成講座 第6巻 相談援助の基盤と専門職』：中央法規出版

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義・討論

〔成績評価の方法〕 受講態度など平常点 30 %、定期試験 70 %

25061

②1相談援助の理論と方法Ⅰ（編入生） S 原 順子

社会福祉援助技術論Ⅰ

⑩社会福祉援助技術論Ⅰ

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、個別援助技術（ケースワーク）を通して学ぶ。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて学ぶ。

〔到達目標〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係及び基本的コミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解できる。人権尊重、権利擁護、自立支援等や、社会福祉援助技術に由来する倫理について理解し、社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・等について考察できる。また、相談援助における人と環境の交互作用に関する理論や様々な実践モデルについて理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 社会福祉サービスと援助活動の関係 | 10 人と環境の相互作用：システム理論 |
| 2 福祉専門職と専門援助技術の関係 | 11 様々な実践モデルとアプローチ：治療モデル、生活モデル |
| 3 社会福祉援助活動の場と専門援助技術（相談援助の対象の概念と範囲を含む） | 12 様々な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ |
| 4 専門援助技術の体系及び内容＜個別援助技術（ケースワーク）＞ | 13 様々な実践モデルとアプローチ：ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ |
| 5 社会福祉援助活動の目的・価値・原則（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む） | 14 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向、相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 6 面接（インテーク）と事前評価（アセスメント） | 15 定期試験 |
| 7 援助計画の作成 | |
| 8 援助活動の実施と評価 | |
| 9 専門援助技術の歴史的展開 | |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

25062

②1相談援助の理論と方法Ⅱ（編入生） W 原 順子

社会福祉援助技術論Ⅱ

⑩社会福祉援助技術論Ⅱ

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、集団援助技術（グループワーク）を通して学ぶ。また、社会福祉援助活動の共通課題（記録・評価・IT活用など）や倫理について学ぶ。

〔到達目標〕 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえ、集団援助技術の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・倫理等について理解できる。また、相談援助における事例分析の意義や方法、および相談援助の実際について理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 集団を活用した相談援助の意義、目的 | 保護の意義 |
| 2 集団を活用した相談援助の方法、留意点 | 9 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の保護の留意点 |
| 3 集団を活用した相談援助（グループダイナミックス） | 10 専門援助技術の統合化とチームによる対応 |
| 4 集団を活用した相談援助（自助グループなど） | 11 相談援助における情報通信技術（IT）の活用
の意義と留意点 |
| 5 社会福祉援助活動の共通課題（記録の意義、目的、方法、留意点） | 12 相談援助における情報通信技術（IT）を活用
した支援の概要 |
| 6 社会福祉援助活動の共通課題（評価の意義、目的、方法、留意点） | 13 事例分析（意義、目的、方法、留意点） |
| 7 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義、目的、留意点、方法 | 14 相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 8 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 75 %、平常点 25 %

25065

①社会福祉援助技術演習Ⅰ

S / W

原 順子 畑智恵美 上續宏道 信田光子

広瀬美千代 藤井 渉

社会福祉援助技術演習Ⅰ

⑩社会福祉援助技術演習Ⅰ

〔授業 題目〕 援助技術の活用能力・態度の育成

〔概 要〕 社会福祉援助技術に関する講義等と関連させながら、福祉の利用者の具体的な事例を取りあげて、社会福祉援助技術を考察することができるよう、演習形式により学習を進める。

〔到達 目標〕 学生の個別及び集団指導を通じて、専門的な援助技術の基礎となる知識と技術を、様々な場面で実際に活用できる能力と態度を育てる。

〔授業 計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 オリエンテーション | 7～9社会福祉援助技術論Ⅰの概念整理（発表形式） |
| 2～6グループディスカッション（1）社会福祉援助技術演習の意義・目的（2）福祉専門職と専門援助技術の関係（3）社会福祉援助活動の原則 ①人権尊重 ②権利擁護 ③自立支援 | 10～13グループによる事例検討 ①児童への援助 ②老人への援助 ③知的障害（児）者への援助 |
| | 14～15評価とまとめ |

〔テキスト〕 プリント等適宜配布

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介。

〔授業形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60％、受講態度など平常点40％

25065

①社会福祉援助技術演習Ⅰ（編入生）

S

畑智恵美

〔授業 題目〕 社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術を習得するための基盤を実践的に学ぶ。

〔概 要〕 社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別演習やグループ演習を組み合わせ、基本となる「自己覚知（自己理解）」から、「人と人の関係性の理解」「他者理解」へと展開させる。その上で「基本的なコミュニケーション技術」「基本的な面接技術」については、個別演習、グループ演習に加えてロールプレイングを用いて実践的に学ぶ。

〔到達 目標〕 自己覚知が深まる。他者の価値観や生活を理解し、尊厳ある存在として受けとめることができる。コミュニケーションや面接場面で必要とされる知識、技術を模倣的に表現でき、理解できる。

〔授業 計画〕

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標） | 9 基本的なコミュニケーション技術を習得する |
| 2 自己覚知（その1：自分と向き合い、自分の価値観を知る） | 10 基本的な面接技術の習得（その1） |
| 3 自己覚知（その2：他者との関係性の中の自分をみつめる） | 11 基本的な面接技術の習得（その2） |
| 4 他者を理解する | 12 基本的な面接技術の習得（その3） |
| 5 高齢者の生活を理解する | 13 事例を通してバイステックの原則を具体的に理解する（その1：受容、共感、信頼関係など） |
| 6 障がい者の生活を理解する | 14 事例を通してバイステックの原則を具体的に理解する（その2：自己決定、守秘義務など） |
| 7 母子・父子・家族システムと生活を理解する | 15 学びの相互評価、自己評価、今後の課題の明確化とまとめ |
| 8 価値観の多様性を学ぶ | |

〔テキスト〕 特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介

〔授業形態〕 演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）（60％）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40％）

25066

②社会福祉援助技術演習Ⅱ（編入生）

S

畑智恵美

〔授業題目〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術、倫理、価値を実践的に学ぶ。

〔概要〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別の援助事例を通して、利用者の生活を理解する。さらに、個別援助事例を活用して具体的な相談援助のプロセスを疑似体験する演習（個別指導・集団指導・ロールプレイング）を通して、総合的、包括的な援助の在り方を学ぶ。

〔到達目標〕相談援助を必要とする対象者の生活の課題を理解できる。具体的な個別相談援助事例の援助過程を模擬的に演習形式で実践し、理解できる。援助過程で求められる専門職としての知識、技術、倫理、価値を具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| <p>1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標）</p> <p>2 事例を用いた演習の取り組み方法（個別演習・グループ演習・ロールプレイング）の説明</p> <p>3 信頼関係構築のための基本（専門職の倫理・価値）を学ぶ（高齢・障害・児童領域の何らかの危機状態にある事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>4 相談援助の初期面接（インテーク）場面を学ぶ（高齢・障害・児童領域の何らかの危機状態にある事例を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>5 相談援助利用者の生活への理解を深める（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>6 相談援助利用者の生活への理解を深める（その2：低所得者、ホームレスなどの事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>7 相談援助のアセスメントとニーズの明確化および利用者の可能性を見出す視点（利用者主体のアプローチ）を事例を用いて学ぶ（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>8 相談援助のアセスメントとニーズの明確化および利用者の可能性を見出す視点（利用者主</p> | <p>体のアプローチ）を事例を用いて学ぶ（その2：家庭内暴力、低所得者、ホームレスの事例を用いての個別演習・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>9 プランニングと他機関、他職種との連携（チームアプローチと社会資源の活用・調整・開発）を学ぶ（その1：高齢・障害・児童の事例（虐待事例も含む）を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>10 プランニングと他機関、他職種との連携（チームアプローチと社会資源の活用・調整・開発）を学ぶ（その2：家庭内暴力、低所得者、ホームレスの事例を用いての個別演習・グループ演習）</p> <p>11 支援の実施とモニタリング、効果測定について、具体的な相談援助事例を通して学ぶ</p> <p>12 終結とアフターケア、社会資源の開発について、具体的な相談援助事例を通して学ぶ</p> <p>13 一連の個別相談援助過程の振り返り、総合的、包括的な援助のあり方として体系化する（個別演習・グループ演習）</p> <p>14 専門職の役割（資質、知識、技能）を総括して、体系化する（個別演習・グループ演習）</p> <p>15 学びの相互評価、自己評価、今後の課題の明確化とまとめ</p> |
|---|---|

〔テキスト〕特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など。

〔成績評価の方法〕レポート（課題提出を含む）（60％）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40％）

25067

②社会福祉援助技術演習Ⅲ（編入生） W 畑智恵美

〔授業題目〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術、倫理、価値を実践的に学ぶ。

〔概要〕社会福祉士に求められる相談援助の知識、技術に関する講義科目との関連性を持たせながら、個別・集団の援助事例を通して、利用者の生活や守られるべき権利を理解する。さらに、個別・集団援助事例を活用して具体的な相談援助のプロセスを疑似体験する演習（個別指導・集団指導・ロールプレイング）を通して、権利擁護活動や地域への働きかけ（アウトリーチ、ネットワーキング）、チームアプローチなどの専門的技術を実践的かつ包括的に学ぶ。

〔到達目標〕相談援助を必要とする対象者の生活の課題を理解し、その権利擁護活動が具体的に理解できる。具体的な個別・集団相談援助事例の援助過程を模擬的に演習形式で実践し、理解できる。具体的な個別・集団相談援助事例の援助過程を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）やチームアプローチが理解できる。援助の理念、援助の過程、地域福祉との関係性、関係機関との連携やチームアプローチなど具体的、包括的、体系的に理解できる。援助過程で求められる専門職としての知識、技術、倫理、価値を具体的に理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| <p>1 オリエンテーション（学修の概要と到達目標）</p> <p>2 相談援助専門職のアドボカシー機能（権利擁護・代弁機能）および権利擁護活動を学ぶ（社会的排除の個別・集団相談援助事例を用いての個別・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>3 地域の理解と協力を得るための働きかけの手法（アウトリーチやネットワーキング）の意義を学ぶ（社会的排除の個別・集団相談援助事例を用いての個別・グループ演習およびロールプレイング）</p> <p>4 個別援助事例を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>5 個別援助事例を通して、他機関、他職種との連携とチームアプローチを具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>6 個別援助事例を通して、専門職のアドボケート機能（権利擁護活動・代弁機能）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>7 集団援助事例を通して、相談援助の一連のプロセス（インテーク・アセスメント・ニーズの明確化）を学ぶ（個別演習、グループ演習およびロールプレイングを用いる）</p> <p>8 集団援助事例を通して、相談援助の一連のプロセス（プランニング・支援の実施・モニタリング等）を学ぶ（個別演習、グループ演習およびロールプレイングを用いる）</p> | <p>9 集団援助事例を通して、地域への働きかけ（アウトリーチやネットワーキング）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>10 集団援助事例を通して、他機関、他職種との連携とチームアプローチを具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>11 集団援助事例を通して、専門職のアドボケート機能（権利擁護活動・代弁機能）を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>12 集団援助事例を通して、社会資源の活用・調整・開発を具体的に学ぶ（個別演習とグループ演習を用いる）</p> <p>13 一連の集団相談援助過程の振り返り、総合的、包括的な援助のあり方として体系化する（個別演習・グループ演習を用いる）</p> <p>14 個別、集団相談援助事例におけるアウトリーチ、チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発の意義を体系的、包括的に理解する（個別演習・グループ演習を用いる）</p> <p>15 学びの自己評価、相互評価、今後の課題の明確化とまとめ</p> |
|--|--|

〔テキスト〕特に指定せず。適宜資料を配布する。

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・グループ討論、ロールプレイ、事例研究など。

〔成績評価の方法〕レポート（課題提出を含む）（60％）演習、発表等に取り組む態度等の平常点（40％）

25070

②社会福祉援助技術実習指導A（編入生） S 畑智恵美 広瀬美千代

〔授業科目〕 ソーシャルワーク専門職への学び

〔授業全体の内容の概要〕 相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解できる。実際に実習を行う実習分野（利用者理解を含む。）と施設・事業所・機関・団体・地域社会等に関する基本的なことが理解できる。実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関することが理解できる。相談援助を利用する、あるいは必要とする方々について理解できる。対人援助に求められる技能を習得し相談援助場面での活用をシミュレーションできる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| <p>1 オリエンテーション（授業の形態・学習内容・成績評価方法の説明、テキスト・参考文献紹介）相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導について、その方法、意義を理解させる。</p> <p>2 実習生としての心得を認識させ、併せて実習中の事故、不測の出来事への対応（リスクマネジメント）を理解させる。</p> <p>3 相談援助に係る自己覚知について理解させる。</p> <p>4 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる①（傾聴・受容・共感）。</p> <p>5 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる②（コミュニケーションスキル）。</p> <p>6 対人援助に共通する援助スキルについて理解させる③（バイステックの7原則）。</p> <p>7 実習分野についての学習①社会福祉施設、関係機関の役割・事業内容、利用者、職員、関係法令についてなどを調べる。</p> <p>8 実習分野についての学習②社会福祉施設、関係機関の役割・事業内容、利用者、職員、関係法令についてなどを調べる。</p> <p>9 利用者やその関係、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションのとり方など円</p> | <p>滑な人間関係の形成について学ぶ。</p> <p>10 実践現場の専門職員による実務講義①（児童福祉施設から講師招聘）。</p> <p>11 グループワーク；児童福祉施設の現状を学ぶ。（利用児理解を含む）保育に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて児童福祉における支援計画について理解していく。</p> <p>12 実践現場の専門職員による実務講義②（高齢者福祉サービス事業所から講師招聘）。</p> <p>13 グループワーク；高齢者福祉サービスの現状を学ぶ。（利用児理解を含む）介護に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて高齢者における支援計画について理解していく。</p> <p>14 実践現場の専門職員による実務講義③（障がい者福祉サービス事業所から講師招聘）。</p> <p>15 グループワーク；障がい者福祉サービスの現状を学ぶ。（利用児理解を含む）援助に必要とされる基本的な知識、技術および関連業務に関する基本的なことを理解する。併せて障がい者福祉における支援計画について理解していく。</p> |
|--|--|

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009年編版』(株)みらい対人援助実践研究会 HEART『対人援助実習サポートブック』久美株式会社

〔参考文献〕 適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・グループ討論など。

〔成績評価の方法〕 課題レポート・小テスト（課題提出を含む）（50%）、発表（20%）授業態度等の平常点（30%）

25081

②社会福祉援助技術実習指導 B (編入生) W 畑智恵美 広瀬美千代

〔授業科目〕 ソーシャルワーク専門職への学び

〔授業全体の内容の概要〕 相談援助実習の意義について理解する。相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔授業終了時の達成課題 (到達目標)〕 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義について理解できる。実際に実習を行う実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業所・機関・団体・地域社会等に関する基本的なことが理解できる。実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関することが理解できる。相談援助を利用する、あるいは必要とする方々について理解できる。対人援助に求められる技能を習得し相談援助場面での活用をシミュレーションできる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 実習先で行われている介護 (ケアワーク) に必要とされる個別援助 (支援) 計画の作成方法を理解させる。 2 実習先で行われている保育 (ケアワーク) に必要とされる個別支援計画の作成方法を理解させる。 3 実習に向けて先輩からのアドバイスを受け、実習イメージをより具体的に考えさせる (パネルディスカッション方式)。 4 実習に向けて先輩からのアドバイスを聞いたの感想をもとにシェアリング実習をどのように取り組むかを具体的に考えさせる。 5 利用者やその関係者 (家族・親族・友人等) への権利擁護及び支援 (エンパワメント) とその評価について理解させる。また社会資源の活用などを理解させる。 6 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチについて理解させる。併せて、個人のプライバシーの保護と守秘義務を理解させる (個人情報保護法の理解を含む)。 7 実習計画について① 実習計画の目的を理解させ、実習計画書作成に関する方法を理解させる。 | <ol style="list-style-type: none"> 8 実習計画について② 各自の志望動機を明確にさせ実習に係る意義を理解させる。 9 実習計画について③ 実習の具体的な達成課題とその取り組み方法を考えさせる。 10 記録の重要性と専門職としての記録方法を理解させる。 11 実習記録ノートの目的と記録内容及び記録方法を理解させる。 12 現場体験学習及び見学実習※ (実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験を含む)。 13 現場体験学習ノートの相互評価を通して、記録のあり方の理解を深める。 14 現場体験学習の総括レポート及び課題達成度に関してシェアリングを実施し体験学習によって得た知識、技術を共有する。 15 実践現場の専門職による実務講義 (相談援助機関から講師招聘)。
※現場体験学習及び見学実習： (40 時間。種別は児童・高齢・障がい者施設とする) を実施する。 *実習ノートと総括レポートを記入させる。 |
|---|--|

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009 年編版』(株)みらい

対人援助実践研究会 HEART『対人援助実習サポートブック』久美株式会社

〔参考文献〕 適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕 講義・演習・発表・グループ討論など。

〔成績評価の方法〕 課題レポート・小テスト (課題提出を含む) (50%)、発表 (20%) 授業態度等の平常点 (30%)

25082

②社会福祉援助技術実習指導C (科目等履修生) S 信田光子

〔授業題目〕 ソーシャルワーク専門職への学び

〔概要〕 ①相談援助実習の意義について理解する。②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践的な技術を体得する。③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。④具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

〔到達目標〕 ①180時間実習の意義を再認識する。②実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術を理解し、社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握などを総合的に考えることができる。③実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務を理解する。(個人情報保護法の理解を含む) ④実習計画書を作成する。⑤実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートを作成する。⑥ 実習の評価全体総括する。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| <p>1 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任について理解させながら、実習への課題を明確化していく。</p> <p>2 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営について理解させながら、実習への課題を明確化していく。</p> <p>3 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関することを理解する。</p> <p>4 実習の計画について① 明確化された課題を各自の取り組みに反映させ再度吟味し、実習目的を考える。</p> <p>5 実習の計画について② 各自の志望動機を明確にさせ実習に係る意義を理解する。</p> <p>6 実習の計画について③ 実習の具体的な達成課題とその取り組み方法を考え実習計画書原案を作成する。</p> <p>7 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画書を作成する。</p> | <p>8 実習直前指導：人権擁護、個人のプライバシーの保護、守秘義務、リスクマネジメントを改めて認識する。</p> <p>9 相談援助実習中の帰校により教員からの実習指導</p> <p>10 相談援助実習中の巡回により教員からの実習指導</p> <p>11 相談援助実習中の帰校により教員からの実習指導</p> <p>12 相談援助実習中の巡回により教員からの実習指導</p> <p>13 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成をさせる</p> <p>14 グループによるシェアリングをもとにグループ毎に実習総括としてまとめさせる</p> <p>15 実習の評価全体総括会（実習総括をグループ毎に発表させ、あわせて個々の課題を明確にさせる）</p> |
|--|--|

〔テキスト〕 対人援助実践研究会HART 編、『対人援助実習サポートブック』、(株)久美

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介。

〔授業形態〕 講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 課題レポート・小テスト（50%）、発表（20%）、平常点（30%）

25083

②社会福祉援助技術実習（科目等履修生） S 信田光子

〔授業題目〕社会福祉実践現場での実習

〔概要〕相談援助実習を通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。併せて、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を獲得し、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解していく。実習ノートを記録し、総括レポートの作成、実習指導者（施設・教員）によるスーパービジョンを実施していく。

〔到達目標〕①相談援助実習を通して相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術を体得する。②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を獲得する。③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 実習時間は180時間。 2 実習前に実習指導科目および実習先のオリエンテーションを受ける。 3 実習中は実習担当教員、施設・機関の実習指導者から実習に関する指導（スーパービジョン）を受ける。教員による指導は施設への巡回指導（2回）と実習生が大学から戻って受ける指導（帰校日2回）とがある。 4 実習終了後は事後学習を受ける。 <p>*実習中の実習指導者による指導内容は次に掲げる事項とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 ② 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 | <ol style="list-style-type: none"> ③ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成 ④ 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメント）とその評価 ⑤ 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 ⑥ 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 ⑦ 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 <p>当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p> |
|---|---|

〔テキスト〕実習指導の授業で紹介する

〔参考文献〕福祉小六法・国民の福祉の動向

〔授業形態〕実習・スーパービジョン

〔成績評価の方法〕実習先評価50%、実習ノート・総括レポート50%

25084

①仏教福祉論

W 名和月之介

仏教福祉論Ⅰ

②仏教福祉論Ⅰ

〔授業題目〕 仏教福祉の基本的考え方

〔概要〕 仏教福祉について、基本的な用語・考え方を学び、その歴史的・社会的な展開過程を概観する。また現代の社会福祉の諸課題を仏教との関係で考えてみる。

〔到達目標〕 仏教福祉について基本的な理解を得ると共に、社会福祉の実践活動における仏教的視点を修得する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1 仏教福祉とは何か (1) | 9 仏教福祉の倫理と実践 (1) |
| 2 仏教福祉とは何か (2) | 10 仏教福祉の倫理と実践 (2) |
| 3 仏教と社会福祉の関係 (1) | 11 仏教福祉の現代的課題 ターミナルケア |
| 4 仏教と社会福祉の関係 (2) | 12 仏教福祉の現代的課題 臓器移植・中絶 |
| 5 仏教福祉の歴史 古代・中世 | 13 仏教福祉の現代的課題 世界の仏教福祉 |
| 6 仏教福祉の歴史 近世・近代 | 14 仏教福祉の展望と課題 |
| 7 仏教福祉の歴史 近現代 (1) | 15 定期試験 |
| 8 仏教福祉の歴史 近現代 (2) | |

〔テキスト〕 日本仏教社会福祉学会編『仏教社会福祉辞典』(法蔵館)を中心にレジユメ配布

〔参考文献〕 適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、レポートと受講参加度 30 %

25087

①家庭福祉論 (編入生)

W 萩原總一郎

児童福祉論Ⅱ

②児童福祉論Ⅱ

〔授業題目〕 児童家庭福祉について理解する。

〔概要〕 児童の発達や諸特性を理解するとともに、現代の少子・高齢社会が抱える児童家庭福祉の諸課題を明らかにし、児童家庭福祉に関わる施策や援助活動の実際について、事例紹介をしながら考察する。

〔到達目標〕 現代社会が抱える児童家庭福祉の諸課題について理解するとともに、施策体系や児童家庭福祉ニーズに対する援助のあり方について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|--------------------------|
| 1 児童の諸特性と家庭福祉 | 9 一人親家庭サービス |
| 2 児童の発達と家庭福祉 | 10 保健・福祉・医療サービスの連携のあり方 |
| 3 児童家庭福祉サービスの体系 | 11 地域及び住環境の整備と福祉用具 |
| 4 子育て支援サービス (経済的支援を含む) | 12 相談援助活動の実際と留意点 |
| 5 母子保健サービス | 13 具体的事例紹介 (児童養護、児童虐待など) |
| 6 保育サービス | 14 具体的事例紹介 (非行、心身障害など) |
| 7 健全育成サービス | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 障害児サービス | |

〔テキスト〕 柏女霊峰著『子ども家庭福祉論』(誠信書房)

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 90 %、平常の成績 10 %

25088

①精神医学Ⅰ（編入生）

S

橋本篤孝

②精神医学Ⅰ

〔概要〕 1. 精神医学、精神医療の歴史において精神障害者がどのように処遇されてきたか概略を述べる。2. 人の脳とはどのようなものかをその生理・解剖を通じて概略を把握する。3. 精神医学では心と体を同じように理解する必要のあることから他の医学と異なった側面をもつが、これらについて理解することが必要である。4. 精神医学診断についても独特なものがあり、基本的な方法について理解する。5. 精神疾患を説明する用語にも独特なものも多く、それらを理解しながら代表的な精神障害について学習する必要がある。初めに、これまで神経症や内因性精神病といわれていた疾患及び人格障害などについて述べる。

〔到達目標〕・精神医学、精神医療の歴史を理解させる。・脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。・精神医学の概念について理解させる。・精神医学診断の基本的な方法について理解させる。・代表的な精神障害について理解させる。・治療の概要について理解させる。・病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 精神医学、精神医療の歴史 | 11 生理的障害および身体的要因に関連した行動
症候群成人の人格および行動の障害 |
| 2 脳および神経の生理・解剖（1）中枢神経系 | 12 精神遅滞心理的発達の障害 |
| 3 脳および神経の生理・解剖（2）末梢神経系 | 13 小児期および青年期に通常発症する行動および
情緒の障害および特定不能の精神障害神経
系の疾患（てんかんを含む） |
| 4 精神医学の概念精神障害の成因と分類 | 14 身体的療法 ①薬物療法とその副作用 ②電
気ショック療法精神療法 環境・社会療法
精神科リハビリテーション |
| 5 診断の手順と方法精神症状と状態像 | 15 病院精神医療（身体合併症医療、インフォ
ームドコンセントを含む）精神科救急医療（イ
ンフォームドコンセントを含む）地域精神医
療および定期試験 |
| 6 心理検査と身体的検査 | |
| 7 症状性を含む器質性精神障害（老人性認知症
を含む）精神作用物質使用による精神および
行動の障害 | |
| 8 統合失調症、統合失調症（型）型障害および
妄想性障害 | |
| 9 気分（感情）障害 | |
| 10 神経症性障害、ストレス関連障害および身体
表現性障害 | |

〔テキスト〕 開講時に指定する

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、レポート等 20%、平常点等 30%

25089

①精神医学Ⅱ（編入生）

W

橋本篤孝

②精神医学Ⅱ

〔概要〕 1. 代表的な精神障害のうち生後の発達に関する障害で、精神遅滞や小児期・青年期における行動・情緒に関する障害を述べる。その他、精神医学に関連する神経系の障害について述べる。2. 治療も心身両面にわたることが多く、その概要について理解する。3. 精神障害者が地域における生活者として自立するために、病院精神医療から地域精神医療への移行が必要になる。インフォームドコンセントを含め、これらについて理解する。

〔到達目標〕・精神医学、精神医療の歴史を理解させる。・脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。・精神医学の概念について理解させる。・精神医学診断の基本的な方法について理解させる。・代表的な精神障害について理解させる。・治療の概要について理解させる。・病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 精神医学、精神医療の歴史 | 症候群成人の人格および行動の障害 |
| 2 脳および神経の生理・解剖 | 10 精神遅滞心理的発達の障害 |
| 3 精神医学の概念精神障害の成因と分類 | 11 小児期および青年期に通常発症する行動および
情緒の障害および特定不能の精神障害 |
| 4 診断の手順と方法精神症状と状態像心理検査
と身体的検査 | 12 神経系の疾患（てんかんを含む） |
| 5 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を
含む）精神作用物質使用による精神および行
動の障害 | 13 身体的療法 ①薬物療法とその副作用 ②電
気ショック療法 |
| 6 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害 | 14 精神療法環境・社会療法精神科リハビリテ
ーション |
| 7 気分（感情）障害 | 15 病院精神医療（身体合併症医療、インフォ
ームドコンセントを含む）精神科救急医療（イ
ンフォームドコンセントを含む）地域精神医
療および定期試験 |
| 8 神経症性障害、ストレス関連障害および身体
表現性障害 | |
| 9 生理的障害および身体的要因に関連した行動 | |

〔テキスト〕 開講時に指定する

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50%、レポート等 20%、平常点等 30%

25090

①精神保健学Ⅰ（編入生）

S

橋本篤孝

⑩精神保健学Ⅰ

〔概要〕 1. 精神保健について健康の定義や発症要因・予防の考え方、課題として精神障害者の入院・在宅の問題、痴呆老人・アルコール依存・覚せい剤乱用の増加にふれ、アメリカとわが国における精神保健運動の歴史について理解する。2. 乳児、幼児から老年期に至るライフサイクルに従って、発達課題・精神的危機・問題行動・好発精神疾患などの精神保健について理解する。3. 精神保健において重要ないくつかの課題がある。これらは老人性痴呆、アルコール関連問題、薬物乱用、思春期での問題行動、ターミナルケア等の問題である。また精神障害者が地域に移行するに当たって地域精神保健対策が重要なものとなろう。これらへの取り組みと実際について理解する。

〔到達目標〕 精神保健についての基本知識について理解させる。・ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。・精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。・地域精神保健と地域保険について理解させる。・諸外国における精神保健の概要について理解させる。・関連法規および施設について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|------------------------|
| 1 精神保健についての基本知識 | 8 精神保健における個別課題—精神障害者対策 |
| 2 ライフサイクルにおける精神保健—胎児期・乳幼児期における精神保健 | 9 老人性痴呆疾患対策 |
| 3 学童期における精神保健 | 10 アルコール関連問題対策 |
| 4 思春期の精神保健 | 11 薬物乱用防止対策 |
| 5 青年期における精神保健 | 12 思春期精神保健対策 |
| 6 成人期における精神保健 | 13 地域精神保健対策 |
| 7 老年期における精神保健 | 14 ターミナルケアと精神保健 |
| | 15 精神保健に関する調査研究及び定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指定する。

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 30 %、その他評価 20 %

25101

①精神保健学Ⅱ（編入生）

W

橋本篤孝

⑩精神保健学Ⅱ

〔概要〕 1 精神保健活動の実際を家族の少子化問題・児童虐待などと、学校での不登校・いじめ・引きこもり・非行などについて述べ、さらに職場でのメンタルヘルスケア、地域での精神障害者施策などについても述べる。2 入院医療中心から地域ケアを中心とする体制への移行にともない、市町村を主体とした地域生活支援の強化が図られている。地域保健施策の概要、精神保健施策と関連法規、関連施策などについて理解する。3 世界的に精神保健の流れは地域精神医療への移行やいくつかの展開がみられるが、先進諸国ではそれぞれの歴史に応じて独自に発展している。それらを概観する。

〔到達目標〕 精神保健についての基本知識について理解させる。・ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。・精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。・地域精神保健と地域保険について理解させる。・諸外国における精神保健の概要について理解させる。・関連法規および施設について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1 精神保健活動の実際—家庭における精神保健 1 | 8 地域における精神保健 2 |
| 2 家庭における精神保健 2 | 9 地域保健と精神保健—地域保健施策の概要 1 |
| 3 学校における精神保健 1 | 10 地域保健施策の概要 2 |
| 4 学校における精神保健 2 | 11 精神保健施策の概要 1 |
| 5 職場における精神保健 1 | 12 精神保健施策の概要 2 |
| 6 職場における精神保健 2 | 13 精神保健施策の概要 3 |
| 7 地域における精神保健 1 | 14 世界の精神保健 1 |
| | 15 世界の精神保健 2 及び定期試験 |

〔テキスト〕 開講時に指定する。

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 30 %、その他評価 20 %

25102

①精神科リハビリテーション学Ⅰ（編入生）S 川下維信

⑩精神科リハビリテーション学Ⅰ

〔概要〕 1 リハビリテーションの概念と歴史及び理念、意義と基本原則、そして精神科リハビリテーションの概念、理念と意義、基本原則と技法、わが国及び諸外国の現状を学習する。2 精神科リハビリテーションの構成について対象、精神保健福祉士の役割、専門職等との連携、施設（病院における施設等、社会復帰施設及びその他の社会資源、精神保健福祉センター及び保健所、その他の協力機関、支援団体）、そして関連領域について学習する。3 精神科リハビリテーションのプロセスとして、リハビリテーション計画、アプローチの方法、疾病の経過・ライフサイクルと精神科リハビリテーションを学習する。

〔到達目標〕 ・精神科リハビリテーションの概念について理解させる。 ・精神科リハビリテーションの構成について理解させる。 ・精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。 ・精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。 ・精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 リハビリテーションの概念と歴史 | 福祉士の役割 |
| 2 リハビリテーションの理念、意義と基本原則 | 10 精神科リハビリテーションにかかわる専門職との連携 |
| 3 精神科リハビリテーションの概念 | 11 精神科リハビリテーションの施設リハビリテーション計画 |
| 4 精神科リハビリテーションの理念と意義 | 12 精神科リハビリテーションの関連領域 |
| 5 精神科リハビリテーションの基本原則 | 13 リハビリテーション計画 |
| 6 わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状1 | 14 アプローチの方法 |
| 7 わが国および諸外国の精神科リハビリテーションの現状2 | 15 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション及び定期試験 |
| 8 精神科リハビリテーションの対象 | |
| 9 精神科リハビリテーションにおける精神保健 | |

〔テキスト〕 精神保健福祉士養成講座編集委員会編集 『精神科リハビリテーション学』（中央法規）

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 30 %、その他評価 20 %

25103

①精神科リハビリテーション学Ⅱ（編入生）W 川下維信

⑩精神科リハビリテーション学Ⅱ

〔概要〕 1 医療機関におけるリハビリテーションについての知識を学習すると共に、これらに精神保健福祉士がどのような役割をもつかを理解する。2 社会的リハビリテーションとして、日常生活への適応のための訓練、社会復帰のための相談・助言・指導の方法を理解する。3 精神科リハビリテーションの統合化では地域リハビリテーション、職業リハビリテーション及び精神保健福祉施策と精神科リハビリテーションの関連について理解する。

〔到達目標〕 ・精神科リハビリテーションの概念について理解させる。 ・精神科リハビリテーションの構成について理解させる。 ・精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。 ・精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。 ・精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| 1 リハビリテーション技法—作業療法およびレクリエーション療法 | 9 精神保健福祉士が行うリハビリテーション1 |
| 2 認知行動療法（生活技能訓練） | 10 精神保健福祉士が行うリハビリテーション2 |
| 3 集団精神療法 | 11 精神科リハビリテーションの連携と統合—地域リハビリテーション1 |
| 4 行動療法 | 12 地域リハビリテーション2 |
| 5 家族教育プログラム | 13 職業リハビリテーション |
| 6 住居訓練 | 14 精神科リハビリテーションの関連領域1 |
| 7 デイケアおよびナイトケア | 15 精神科リハビリテーションの関連領域2及び定期試験 |
| 8 精神科訪問看護、退院時プログラム（退院前訪問・退院時指導） | |

〔テキスト〕 精神保健福祉士養成講座編集委員会編集 『精神科リハビリテーション学』（中央法規）

〔参考文献〕 講義の際適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、平常点 30 %、その他評価 20 %

25104

②精神保健福祉論Ⅰ（編入生）

W 川下維信

精神保健福祉論Ⅰ

⑩精神保健福祉論Ⅰ

【概要】 要】 障害者福祉の歴史および、その中で展開されていったノーマライゼーション、リハビリテーション、生活の質（QOL）、生活支援、自立と社会参加などについて述べ、障害の国際生活機能分類（ICF）とともに、精神障害の特性を理解させる。また、障害者基本法や障害者プランを取り上げ、社会福祉基礎構造改革と精神障害者福祉について言及する。以上、障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者における共通の福祉施策の概要について理解を目指す。次に精神障害者への福祉施策や援助を、法制の流れを中心に国際比較も含め、その歴史と理念を理解させる。また、精神障害者の地域生活の確保のため精神保健福祉法の制定に至る基本法制度の進展と社会福祉実践の果たした役割について取り上げた。そして、精神障害者の諸問題支援の必要性から、保健所から市町村への業務移管など、市町村責務により精神障害者福祉へと移行していく意義と課題を理解させる。

【到達目標】 ・障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。・精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。・精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。・精神保健福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉の関連施策について理解する。

【授業計画】

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 障害者福祉の歴史① | 9 精神保健福祉の成立へ向けて |
| 2 障害者福祉の歴史② | 10 社会福祉基礎構造改革と精神障害者福祉 |
| 3 障害者福祉の理念と意義① | 11 障害者基本法 |
| 4 障害者福祉の理念と意義② | 12 障害者プランの背景と動向 |
| 5 障害の概念 | 13 新障害者プランと精神障害者施策の展望 |
| 6 精神障害の概念 | 14 障害者自立支援法 |
| 7 精神保健福祉法の歴史と理念の変化 | 15 定期試験 |
| 8 精神保健福祉法と精神障害者 | |

【テキスト】 日本精神保健福祉士養成校協会編 『改訂 精神保健福祉論（精神保健福祉士養成講座4）』（中央法規出版）

【参考文献】 講義時に適宜紹介する。

【授業形態】 講義

【成績評価の方法】 定期試験 70 %、平常の成績 30 %

25105

①精神保健福祉論Ⅱ（編入生）

S 川下維信

②精神保健福祉論Ⅱ

〔概要〕現在の社会における精神障害者や家族の暮らし、精神保健福祉サービス、病院、関連施設など現状を理解させる。精神障害者支援施策の歴史のなかでノーマライゼーションの理念や取り組みを、国際的背景のもとに取り上げ、精神障害者関係施策や制度の現状を国際比較する。また、障害者と精神障害者の人権保障について、国連およびわが国における取り組み、さらに国連原則およびインフォームド・コンセントを取り上げる。精神医療では、権利擁護制度の概要と到達点を理解し、精神医療審査会制度と第三者機関を理解する。さらに、欠格条項問題、当事者団体の意義、成年後見制度・地域福祉権利擁護事業を理解する。精神保健福祉士の理念と意義について、まず精神保健福祉士法の成立までの経緯を概観し、精神保健福祉士法の資格のもつ意義、実践活動における対象者とその関連部分、専門性について、知識・技術・理念と価値という三つの側面から学ぶ、精神障害者に対する相談援助活動について、まず社会的障壁の問題、主体性の尊重、豊かな人間関係と自己選択、自己決定の尊重、それらに基づく援助による主体性の回復と生活意欲の支援、地域生活における相談援助の視点と方法などを考える。事例は、孤立した女性が人間関係を回復し、主体的にことを進め、自分の生活を確立していくプロセスを紹介する。最後に、精神保健福祉法の意義と内容を理解させ、精神保健福祉士法の全容の概要や構成、試験や養成について解説する。

〔到達目標〕・障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。・精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。・精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。・精神保健福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉の関連施策について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 現代社会と精神障害者① | 9 精神障害者に対する相談援助活動① |
| 2 現代社会と精神障害者② | 10 精神障害者に対する相談援助活動② |
| 3 現代社会と精神障害者③ | 11 精神障害者に対する相談援助活動③ |
| 4 精神障害者の人権① | 12 精神保健福祉法、精神保健福祉士法① |
| 5 精神障害者の人権② | 13 精神保健福祉法、精神保健福祉士法② |
| 6 精神保健福祉士の理念と意義① | 14 まとめ |
| 7 精神保健福祉士の理念と意義② | 15 定期試験 |
| 8 精神保健福祉士の理念と意義③ | |

〔テキスト〕日本精神保健福祉士養成校協会編 『改訂 精神保健福祉論（精神保健福祉士養成講座4）』（中央法規出版）

〔参考文献〕講義時に適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常の成績 30 %

25106

①精神保健福祉論Ⅲ（編入生）

W 川下維信

⑩精神保健福祉論Ⅲ

〔概要〕 精神保健福祉に関する行政組織についての知識を学習する。精神障害者の経済的負担軽減のため、各種の制度を理解し、さらに、精神障害者の支援施策について基本的課題、医療の現状と施策の課題、精神障害者福祉施策の課題として述べる。今後は、精神障害者の社会復帰が加速されなければならないが、このための精神障害者社会復帰施設の概要、社会復帰にかかわるその他の事業、社会復帰施策の現状と今後の施策課題を考察する。精神障害者の生活を支えるため、また精神保健福祉業務を進めるため、関連法や医療保険制度、各保険、保険給付等の概要について述べる。また、精神障害者の自己実現のため、働くことは重要である。そこで、雇用・就労に関して、精神障害のある人に対する雇用・就労関連施策、一般雇用、福祉的就労、労働保険についての知識を学ぶ。精神障害のある人にとっては所得保障も必須のものである。これについて、年金制度、生活保護、手当、災害補償があるが、さらに、経済負担の軽減措置も安心できる暮らしには必要である。これらに加え、生活の場が障害のニーズに応じて供給されねばならず、住宅確保についても種々の支援が必要となる。精神保健福祉のこれからの新たな展開のため、現在の精神障害者施策や関連制度の到達点を課題とともに整理し、保健所から市町村への業務移管で何が変わるのかを知り、市町村主体の精神保健福祉活動が、地域生活支援の基盤づくりの要であることを理解する。精神障害をもつ人が主体的に地域で生活するためには在宅福祉サービスが必要であり、地域生活支援の考え方と関連施策についての現状と課題を取り上げる。最後に、今後の精神保健福祉の展開についても整理しておく。

〔到達目標〕 ・障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。・精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。・精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解する。・精神保健福祉施策の概要について理解する。・精神保健福祉の関連施策について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 精神保健福祉施策の概要①行政組織 | 10 精神保健福祉の新たな展開①到達点とこれから |
| 2 精神保健福祉施策の概要②公費負担制度 | 11 精神保健福祉の新たな展開②市町村精神保健福祉 |
| 3 精神保健福祉施策の概要③現状と課題 | 12 精神保健福祉の新たな展開③地域生活支援 |
| 4 精神保健福祉の関連施策①関連法の概要 | 13 精神保健福祉の新たな展開④新たな展開 |
| 5 精神保健福祉の関連施策②医療保険制度 | 14 まとめ |
| 6 精神保健福祉の関連施策③雇用・就労 | 15 定期試験 |
| 7 精神保健福祉の関連施策④所得保障 | |
| 8 精神保健福祉の関連施策⑤経済負担の軽減 | |
| 9 精神保健福祉の関連施策⑥生活環境の改善 | |

〔テキスト〕 日本精神保健福祉士養成校協会編 『改訂 精神保健福祉論（精神保健福祉士養成講座4）』（中央法規出版）

〔参考文献〕 講義時に適宜紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常の成績 30 %

25109

①精神保健福祉援助技術各論Ⅰ（編入生） S 川下維信

②精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

〔概要〕 精神障害者の疾病及び障害に配慮したケースワーク（実際・適用分野とスーパービジョンなど）、グループワーク（実際・適用分野とスーパービジョンなど）、精神障害者を対象としたコミュニティワーク（ノーマライゼーション推進、社会資源活用、地域での連携、家族会・自助グループ支援、ボランティア等の育成、地域援助）について具体的事例に基づき学習する。

〔到達目標〕 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者ケアマネジメントについて、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者を対象とした地域援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者を対象とした援助技術について、具体的事例に基づき理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 オリエンテーション 精神障害者に対する支援について | 9 グループワーク③ 集団援助技術におけるスーパービジョン |
| 2 ケースワーク① 疾病及び障害に配慮した個別援助技術 | 10 グループワーク④ 具体的事例検討 |
| 3 ケースワーク② ケースワークの実際と適用分野 | 11 グループワーク⑤ まとめ |
| 4 ケースワーク③ 個別援助技術におけるスーパービジョン | 12 コミュニティワーク① 地域援助技術の概念と基本的性格 |
| 5 ケースワーク④ 具体的事例検討 | 13 コミュニティワーク② 地域援助技術の具体的展開 |
| 6 ケースワーク⑤ まとめ | 14 コミュニティワーク③ 具体的事例検討とまとめ |
| 7 グループワーク① 疾病および障害に配慮した集団援助技術 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 グループワーク② 集団援助技術の実際と適用分野 | |

〔テキスト〕 日本精神保健福祉士養成校協会編『改訂6』（中央法規出版） 精神保健福祉援助技術各論（精神保健福祉士養成講座）

〔参考文献〕 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉援助技術各論』（改訂第3版精神保健福祉士養成セミナー第6巻）（へるす出版）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常の成績 30 %

25110

①精神保健福祉援助技術各論Ⅱ（編入生） W 川下維信

②精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

〔概要〕 精神障害者ケアマネジメント（原則、意義、留意点、プロセス、チームケア、チームワーク）について具体的事例に基づき学習し、また関連職種との連携（チーム医療における精神保健福祉士・専門職の役割と機能、チームアプローチ・生活支援での精神保健福祉士の役割、包括的保健・医療・福祉・サービス）について学習する。

〔到達目標〕 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者ケアマネジメントについて、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者を対象とした地域援助技術について、具体的事例に基づき理解する。・精神障害者を対象とした援助技術について、具体的事例に基づき理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 ケアマネジメント① ケアマネジメントの原則 | 9 チーム医療③ チームアプローチおよび生活支援の理念と精神保健福祉士の役割 |
| 2 ケアマネジメント② ケアマネジメントの意義と留意点 | 10 チーム医療④ 協力、連携による包括的保健・医療・福祉サービス |
| 3 ケアマネジメント③ ケアマネジメントのプロセス | 11 チーム医療⑤ まとめ |
| 4 ケアマネジメント④ ケアチームとチームワーク | 12 危機対応① 大震災等における医療面での教訓 |
| 5 ケアマネジメント⑤ 具体的事例検討 | 13 危機対応② 大震災等における精神保健福祉分野の教訓 |
| 6 ケアマネジメント⑥ まとめ | 14 危機対応③ 今後の課題とまとめ |
| 7 チーム医療① チーム医療における精神保健福祉士の役割 | 15 定期試験およびまとめ |
| 8 チーム医療② 専門職および機能専門職の役割と機能 | |

〔テキスト〕 日本精神保健福祉士養成校協会編『改訂6』（中央法規出版） 精神保健福祉援助技術各論（精神保健福祉士養成講座）

〔参考文献〕 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉援助技術各論』（改訂第3版精神保健福祉士養成セミナー第6巻）（へるす出版）

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常の成績 30 %

25123

②精神保健福祉援助実習（編入生）

W・S・W 橋本篤孝 川下維信

⑩精神保健福祉援助実習

〔概要〕 精神保健福祉援助実習は「精神保健福祉士」を専門職として養成することの一部を担い、精神保健福祉機関等において利用者と直接触れ合う事の中から、学校等で学んできた事を体得し、自己覚知を行い、「精神保健福祉士」としての知識・理論・技術・価値・倫理を養う機会である。精神保健福祉援助実習の目的は、精神障害者にとって精神保健福祉士として要請される専門知識、対人援助技術、福祉専門職としての態度を配属される施設や機関のなかでいっそう深めていくことにある。

〔到達目標〕 1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を習得する。 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基いた行動ができるようにする。 4 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 全過程オリエンテーション | 23 配属実習における諸注意 |
| 2 全実習施設概要 | 24 配属実習① |
| 3 見学実習前オリエンテーション① | 25 配属実習②（巡回指導） |
| 4 実習施設見学実習（Ⅰ） | 26 配属実習③ |
| 5 実習施設見学実習（Ⅱ） | 27 配属実習④（巡回指導） |
| 6 見学についてのレポート提示 | 28 実習体験報告会① |
| 7 提示レポートのグループ討論 | 29 実習体験報告会② |
| 8 専門職者による実務講義① | 30 前半のマトメ |
| 9 専門職者による実務講義② | 31 実習記録の整理指導① |
| 10 事前学習① | 32 実習記録の整理指導② |
| 11 事前学習② | 33 全体発表とグループ討議① |
| 12 事前学習③（含視聴覚学習） | 34 全体発表とグループ討議② |
| 13 事前学習④（含リハビリ実習指導） | 35 全体発表とグループ討議③ |
| 14 専門職者による実務講義③ | 36 全体発表とグループ討議④ |
| 15 専門職者による実務講義④ | 37 専門職者による実務講義⑤ |
| 16 見学実習前オリエンテーション② | 38 専門職者による実務講義⑥ |
| 17 実習施設見学実習（Ⅲ） | 39 実習報告書作成指導① |
| 18 実習施設見学実習（Ⅳ） | 40 実習報告書作成指導② |
| 19 見学についてのレポート提示 | 41 実習報告書作成指導③ |
| 20 提示レポートのグループ討論 | 42 精神保健福祉専門職の適正と進路 |
| 21 配属実習オリエンテーション | 43 専門職者による実務講義⑦ |
| 22 配属実習先施設の概要 | 44 専門職者による実務講義⑧ |

〔テキスト〕 実習の手引き・ノート、その他資料を配布する。

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕 実習時評価 40 %、報告およびレポート 30 %、授業態度 30 %

25124

①仏教人間論

W 奈倉道隆

仏教人間論

⑩仏教人間論

〔授業題目〕 現代社会が求める仏教

〔概要〕 現代の苦悩を克服し、より人間らしく生きる道を求める。釈尊の生涯・教えの根本を学ぶ。世界三
大宗教中の仏教の特色を明らかにする。修行を天台の止観・禅・念仏の行者のビデオから学ぶ。

〔到達目標〕 心豊かな人間生活を築く「仏教人間論」の修得。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 仏教と人間のいのち① | 9 禅と雲水の生活 |
| 2 仏教と人間のいのち② | 10 法然上人の生涯と念仏 |
| 3 釈尊の生涯と教え | 11 神道の祭の歓びと日本仏教 |
| 4 ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の特色 | 12 内観による真の自己の目覚め |
| 5 イエスキリストの生涯と救済の特色 | 13 生老病死の苦ととりくむビハーラ |
| 6 マザーテレサのアカペーの愛と慈悲 | 14 これからの社会が求める仏教 |
| 7 三大宗教の中の仏教の特色 | 15 定期試験 |
| 8 天台摩訶止観と千日回峰行 | |

〔テキスト〕 講義の前の週に配るプリントによる

〔参考文献〕 奈倉他共著『私には仏教がある』（在家仏教協会）

〔授業形態〕 双方向授業

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、積極的な授業参加度（平常等） 50 %

25125

①教育人間学

W 北岡宏章

教育人間学

⑩教育人間学

〔概要〕 本講義は、教職を目指す受講者が、その教育実践の基盤として、自らの人間観をより広く深いものに形作る一助となるよう、人間存在の諸層・諸側面とその相互の連関、更には人間性の生成・発展について論じる。特に、科学技術と生命科学の進歩と意義、およびそれらが逆にもたらしている現代社会の混迷、宗教（性）と人間の関わりなど、現代を特徴付ける諸問題を中心に据え、学生自らが根本的に考え、そこから教育の問題を考察することができるように指導する。《授業形態》は、講義のほか小レポートや発表、討議も可能な限り織り込んでいく。

〔到達目標〕 今日の人間が直面している問題状況およびその教育的影響について理解し、解決を探るべき方向について考えを深める。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 人類の進化と人間性の発展 |
| 2 人間性の揺らぎと人間学 | 10 脳の成長と教育 |
| 3 人間学の歴史と方法 | 11 人間の成長と言語の獲得 |
| 4 生命科学の進歩と問題点 | 12 ランゲフェルト「子どもの人間学」(1) |
| 5 生殖医療の進歩と問題点 | 13 ランゲフェルト「子どもの人間学」(2) |
| 6 終末期医療と死生観の変化 | 14 ランゲフェルト「子どもの人間学」(3) |
| 7 ケータイの功罪 | 15 定期試験 |
| 8 ITがもたらす人間性の変容 | |

〔テキスト〕 林勲編著『教育の原理』 法律文化社

〔参考文献〕 授業で指示。

〔授業形態〕 講義・発表・討論

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 %、平常点 30 %

25126

②社会と人間

W 佐竹通男

社会と人間

⑩社会と人間

〔授業題目〕労働を通じての社会参加の意義

〔概要〕人間にとって「働く」ことは単に生活の糧を得ることにとどまらず、社会とのつながりに欠かせない手段である。労働、食料、こころをキーワードに労働の持つ意義について考える。

〔到達目標〕働くことを通じて社会と個人はどのようにつながり、どのようにかかわっているのか。諸外国の労働観と日本の伝統的な労働観の違いを知る。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 途上国におけるマイクロクレジット |
| 2 少子高齢化は何をもたらすか | 10 ファーストフードとスローフード |
| 3 格差を生む社会・ワーキングプア | 11 世界との共生 |
| 4 働くことの意義・ニート問題 | 12 「もったいない」の意味 |
| 5 「食育」の必要性 | 13 労働と宗教 |
| 6 食料生産と文化 | 14 アジアの労働観 |
| 7 食料の偏在 | 15 定期試験 |
| 8 過疎と限界集落 | |

〔テキスト〕プリントを毎回、配布する

〔参考文献〕小林多喜二著『蟹工船』（新潮文庫）、山本博史著『現代たべもの事情』（岩波新書）ほか

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

25127

②高齢者福祉論

W 上績宏道

〔授業題目〕高齢者福祉の現状と課題を学ぶ

〔概要〕高齢社会の到来と少子社会状況の下で、日本の社会福祉は大きな岐路に立っている。本講義では高齢者問題とその社会的背景、高齢者福祉の理念や歴史的展開、具体的な対策が進められつつある制度やサービス等について学修する。

〔到達目標〕高齢者福祉に関して必要な知識や考え方を習得することにより、今後の高齢者福祉のあり方について主体的に考え、対応する態度や能力を育てる。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 1 高齢社会の到来 | 6 高齢者の生活とニーズ | 11 介護保険制度 |
| 2 高齢者を取り巻く社会環境 | 7 老人福祉法 | 12 関連諸サービス |
| 3 高齢者の身体的特性 | 8 施設福祉サービス | 13 高齢社会の福祉教育① |
| 4 高齢者の心理的特性 | 9 在宅福祉サービス | 14 高齢社会の福祉教育② |
| 5 高齢者福祉の歴史 | 10 保健医療制度 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕川村匡由、『高齢者福祉論』、ミネルヴァ書房

〔参考文献〕福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009年版』みらい

〔授業形態〕講義・対話・ビデオ

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、平常点 30 %

25127

老人福祉論Ⅱ

W 笠原幸子

㊦老人福祉論Ⅱ

〔授業科目〕老人福祉論Ⅱ

〔概要〕高齢者福祉の具体的方法について考察し、その効果的な展開を地域福祉、在宅福祉という時代における高齢者福祉の先駆的事例を通して学習する。さらに、企業やNPO等の新しいサービス提供体の出現とその実際の事例を学び、合わせてまちづくりや住宅、福祉用具等についてその開発、活用等を具体的に学習する。また、グループホーム等を含む高齢者の施設に関する新しい方向や高齢者福祉サービスの人材についての現状と展望についても学習する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 介護保険制度の目的と理念 | 9 事例研究Ⅰ（在宅の寝たきり老人の場合） |
| 2 介護保険制度の運営と財源 | 10 事例研究Ⅱ（在宅の痴呆性老人の場合） |
| 3 介護保険制度の給付と利用手引き | 11 事例研究Ⅲ（独居老人の場合） |
| 4 在宅福祉サービスの意義 | 12 事例研究Ⅳ（施設での要介護老人の場合） |
| 5 在宅福祉サービスの内容 | 13 事例研究Ⅴ（施設での虚弱老人の場合） |
| 6 施設福祉サービスの意義 | 14 高齢者の生きがいと健康づくりについて |
| 7 施設福祉サービスの内容 | 15 定期試験及び総括 |
| 8 民間シルバーサービスの現状と展望 | |

〔テキスト〕笠原幸子著『シリーズ基礎からの社会福祉③老人福祉論』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、小テスト・レポート提出等 20 %、出席状況 20 %

25128

㊦障害者関係法規（編入生）

W 原 順子

障害者福祉論Ⅱ

㊦障害者福祉論Ⅱ

〔概要〕わが国における障害（児）者施策の法体系と障害（児）者の福祉サービスについて学ぶ。更に、諸外国の障害者福祉の法制度、障害者の生活、障害者運動の実態について学ぶ。

〔到達目標〕障害者施策の法体系について理解を深める。障害（児）者に対する福祉サービスについて理解する。障害福祉の最近の動向について理解を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 障害者の生活と援助サービス（事例検討） | 8 障害者に関する国際的宣言 |
| 2 障害者施策の法体系 | 9 民間サービスの役割と意義及びその現状 |
| 3 障害（児）者の年金・手当及び経済的負担の軽減 | 10 障害者福祉の関連施策 |
| 4 障害者福祉における生活環境に関する施策 | 11 アメリカ障害者法と日本の動向 |
| 5 障害児の教育 | 12 諸外国の障害者福祉の現状 |
| 6 さまざまな障害者へのサービスの体系と内容 | 13 障害者の自立生活運動 |
| 7 障害者と就業 | 14 障害者福祉の最近の動向 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕開講時に指示する

〔参考文献〕講義時に紹介する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 75 %、平常点等 25 %

25129

①介護演習（編入生）

W 濱田佐知子

介護演習 A

②介護演習 A

〔授業題目〕 高齢者介護の基本技術習得

〔概要〕 本演習は、高齢者介護分野に関心をもつ学生を対象とする。対象者の多くは身体的又は精神的なケアを必要としている。チームケアを実施していく際に必要な介護の基本技法を学ぶ。

〔到達目標〕 介護を必要としている当事者やその家族等の介護者、及びサービスを提供する職種間との連携を図ることができる社会福祉士（相談援助職）として、必要な介護・生活援助の基本的な知識・技術を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション 社会福祉士のための介護の心得 | 8 基礎介護技術 食事 |
| 2 コミュニケーション技法 | 9 基礎介護技術 排泄・清潔 |
| 3 基礎介護技術 観察 | 10 認知症の理解と介護 |
| 4 基礎介護技術 環境を整える | 11 運動機能障害の理解と介護 |
| 5 基礎介護技術 体位と座位保持 | 12 高次脳機能障害の理解と介護 |
| 6 基礎介護技術 衣服の着脱と清潔 | 13 内部障害の理解と介護 |
| 7 基礎介護技術 移乗・移動 | 14 終末期の介護 |
| | 15 定期試験・まとめ |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70 点、平常点 30 点

25130

①リハビリテーション論（編入生）

W 藤平保茂

②リハビリテーション論

〔授業題目〕 介護福祉士の専門性を理解する

〔概要〕 リハビリテーションの理念と基本原則を解説した上で、高齢者や障害者における具体的な障害の程度とその影響について、実際の介護福祉士の援助について、具体的なイメージを持てる様に講義する。

〔到達目標〕 生活の場で活かせるリハビリテーションの基本的知識や技術を習得することを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 1 リハビリテーションの理念（ノーマライゼーション、自己決定、QOL 等） | 8 障害児の障害の程度とその影響（発達障害を含めて） |
| 2 リハビリテーションの理念と技術の歴史の変遷 | 9 医学的リハビリテーションの理論と実際 |
| 3 現代社会におけるリハビリテーションの重要性（他の専門職との連携の重要性も含む） | 10 職業的リハビリテーションの理論と実際 |
| 4 介護福祉士に要求されるリハビリテーションの知識と技術 | 11 教育的リハビリテーションの理論と実際 |
| 5 家庭生活の構造（利用者への家事援助、介護援助と作業管理、家庭の情報処理） | 12 社会的リハビリテーションの理論と実際 |
| 6 高齢者の障害の程度とその影響 | 13 介護福祉士に必要なリハビリテーションの展開過程、理論編 |
| 7 障害者の障害の程度とその影響 | 14 介護福祉士に必要なリハビリテーションの展開過程のシュミレーション |
| | 15 リハビリテーションの展開過程に対するグループ討議 |

〔テキスト〕 『福祉士養成講座編集委員会編 リハビリテーション論』（中央法規出版）

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験、小テスト、レポート提出等および平常状況で総合的に評価する。

25141

①レクリエーション活動援助法Ⅰ（編入生）S 大西敏浩

レクリエーション活動援助法Ⅰ

②レクリエーション活動援助法Ⅰ

〔授業題目〕レクリエーション活動の計画

〔概要〕福祉現場で必要とされるレクリエーションとは何かについて学ぶ。また、援助者としての役割や基本的態度についても学ぶ。

〔到達目標〕ただ単に楽しむだけではなく、人生をより豊かにするレクリエーションの本質をおさえた上で、実際にレクリエーション活動を計画できること。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1 レクリエーションの基本的理解 | 7 レクリエーション活動の主体 |
| 2 アイスブレイキング | 8 個人とレクリエーション |
| 3 レクリエーションの活動領域 | 9 集団とレクリエーション |
| 4 レクリエーション・インストラクターの役割と意義 | 10 支援者の態度 |
| 5 課題認定校交流大会に向けて～自分たちでゲームを考える～① | 11 レクリエーションの計画 |
| 6 課題認定校交流大会に向けて～自分たちでゲームを考える～② | 12 活動計画① 案の作成 |
| | 13 活動計画② 〃 |
| | 14 活動計画③ 発表 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕福祉養成講座委員会著『レクリエーション活動援助法』（中央法規）

〔参考文献〕

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 60 %、課題 20 %、平常点 20 %

25142

①レクリエーション活動援助法Ⅱ（編入生）W 奥野孝昭

〔授業題目〕レクリエーション活動の実践

〔概要〕レクリエーション活動を計画し、実践する。互いに評価することで、計画および実施方法、また支援者の態度について学ぶ。

〔到達目標〕利用者の状況に合わせてプログラムを工夫すると共に、安全面等への配慮ができるようになること。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 レクリエーション支援論 | 9 レクリエーション活動の発表② |
| 2 目的にあわせたレク・ワーク① | 10 レクリエーション活動の発表③ |
| 3 目的にあわせたレク・ワーク② | 11 レクリエーション活動の発表④ |
| 4 対象にあわせたレク・ワーク① | 12 レクリエーション活動の発表⑤ |
| 5 対象にあわせたレク・ワーク② | 13 レクリエーション活動の発表⑥ |
| 6 レクリエーション活動計画① | 14 活動発表の評価 |
| 7 レクリエーション活動計画② | 15 定期試験 |
| 8 レクリエーション活動の発表① | |

〔テキスト〕浅野祥三他、『レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～』、(財)日本レクリエーション協会

〔参考文献〕講義の際、適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 40 %、発表・平常点 60 %

25143

①社会福祉発達史 I

S 慎 英弘

社会福祉発達史 A

⑩社会福祉発達史 A

〔授業題目〕西洋社会事業史

〔概要〕本講義では、イギリスの社会事業史を取り上げる。特に1349年から1601年の間のさまざまな「救貧法」を取り上げ、労働力対策や貧民対策がどのように行われたかを研究する。

〔到達目標〕現代社会福祉がどのような過程をたどって形成されたかを学生に理解させ、将来の社会福祉を展望できる力を身につけさせる。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------|----------------|--------------|
| 1 黒死病と人口問題 | 6 封建家臣団の没落 | 11 残虐立法 |
| 2 労働者勅令の発布 | 7 囲い込み運動と農民追放 | 12 貧民救済法 |
| 3 農民反乱の勃発 | 8 修道院の解散と貧民問題 | 13 浮浪者処罰法 |
| 4 1388年法と労働力対策 | 9 1504年法と貧民問題 | 14 旧救貧法と貧民対策 |
| 5 治安判事制の成立 | 10 1531年法と貧民対策 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義時に紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験の結果によって成績を100%評価する。

25144

①社会福祉発達史 II

W 慎 英弘

社会福祉発達史 B

⑩社会福祉発達史 B

〔授業題目〕イギリス及び日本社会事業史

〔概要〕本講義では、イギリスと日本の社会福祉の歴史について研究する。イギリスの研究では18世紀以降の貧民対策を、日本の研究では明治以降の救済制度を分析する。

〔到達目標〕現代社会福祉がどのような過程をたどって形成されたかを学生に理解させ、将来の社会福祉を展望できる力を身につけさせる。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1 ナッチブル法と貧民対策 | 9 少数派報告による劣等処遇の批判 |
| 2 ギルバート法と労役場の変化 | 10 ベヴァリッジ報告 |
| 3 低賃金労働者の簇出 | 11 恤救規則成立以前の救済制度 |
| 4 スピーナムランド制度と低賃金対策 | 12 恤救規則の成立 |
| 5 マルサスの惰民養成論 | 13 恤救規則改正の動き |
| 6 新救貧法と貧民対策 | 14 救護法の成立と貧民対策 |
| 7 セツルメント活動 | 15 定期試験 |
| 8 ラウントリーの社会調査 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕講義時に紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験の結果によって成績を100%評価する。

25145

①社会福祉法制論 I

S 和田謙一郎

社会福祉法制論 A

⑩社会福祉法制論 A

〔授業題目〕社会福祉の法律入門

〔概要〕この講義では、社会福祉を学ぶ学生が最低限知っておかなければならない法令を少しずつ把握していく。そのうえで、社会福祉法制の領域にある法令に触れながら、法令個々の問題と社会福祉制度の枠組みをしっかりと眺めて、社会福祉法制論Ⅱ・Bの講義へとつなげていく。

〔到達目標〕とにかく、福祉六法を調べることに慣れていること。そのうえで、社会福祉法制にかかわる法令を、自分で確認できるようになる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|
| 1 社会福祉の法律入門 | 8 具体的な事例（児童手当法）を眺めて社会福祉法制にアプローチするⅢ |
| 2 社会福祉法制とは | 9 社会福祉法の基本的性格Ⅰ |
| 3 なぜ社会福祉法制を学ぶのか | 10 社会福祉法の基本的性格Ⅱ |
| 4 社会福祉六法とは何か | 11 措置から契約へ |
| 5 社会福祉法制の領域に入る法令 | 12 申請主義と職権 |
| 6 具体的な事例（生活保護制度）を眺めて社会福祉法制にアプローチするⅠ | 13 法令における原則と例外 |
| 7 具体的な事例（老人福祉制度）を眺めて社会福祉法制にアプローチするⅡ | 14 社会福祉法制全体像の確認 |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕加藤智章他著『社会保障法（最新版）』（有斐閣）

〔参考文献〕社会福祉六法（どの出版社のものでもかまわない）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕レポート 80%、平常の成績 20%

25146

①社会福祉法制論Ⅱ

W 和田謙一郎

社会福祉法制論 B

⑩社会福祉法制論 B

〔授業題目〕社会福祉法制の概念

〔概要〕各制度の根拠となる法令等の条文を直に調べるのが苦手な学生が多いので、本講義では、社会福祉法制論Ⅰ・A以上にそれら法令等に直に触れ、条文に親しむことを目的とする。制度政策について整理し直したいと思っている3・4回生の履修も期待する。

〔到達目標〕後に履修する専門科目の糸口を探り、法令や行政文章等を自分で正しく解釈できるようになっている。また、法制のヨコの関係が理解できている。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|----------------------------------|
| 1 「社会福祉法制論Ⅰ・A」を受けての「Ⅱ・B」の位置付けの確認 | 9 知的障害者福祉法の目的などの確認 |
| 2 社会福祉立法の根拠 | 10 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の目的などの確認 |
| 3 社会福祉立法の成立まで | 11 老人福祉法の目的などの確認 |
| 4 社会福祉関係の条文に親しむ | 12 高齢者の医療の確保に関する法律・介護保険法の目的などの確認 |
| 5 社会福祉法の目的などの確認 | 13 障害者自立支援法の目的などの確認 |
| 6 生活保護法の目的などの確認 | 14 母子及び寡婦福祉法の目的などの確認 |
| 7 児童福祉法の目的などの確認 | 15 まとめ |
| 8 身体障害者福祉法の目的などの確認 | |

〔テキスト〕加藤智章他著『社会保障法（最新版）』（有斐閣）

〔参考文献〕社会福祉六法（どの出版社のものでもかまわない）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕レポート 80%、平常の成績 20%

25147

① ケアマネジメント論 (編入生)

S

畑智恵美

② ケアマネジメント論 A

〔授業題目〕 地域生活を支える支援としてのケアマネジメント

〔概要〕 社会福祉の実践的な地域生活援助技術として注目されているケアマネジメント（ケアマネジメントと同義語）について、歴史、理念、機能、援助過程（プロセス）、ケアマネジャーの倫理・価値と役割、ソーシャルワークでの位置付けなど基本的な内容を中心に学ぶ。さらに具体的なケアマネジメント援助事例を通して、学びを深める。

〔到達目標〕 ケアマネジメントプロセスの実際とケアマネジャーの役割を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------------------|----------------------------|
| 1 ケアマネジメントの歴史 ソーシャルワークとケアマネジメントの関係 | 8 ケアマネジャーの倫理と価値：実務講義を通して学ぶ |
| 2 ケアマネジメントの基本理念 ケアマネジメントにおける新しい流れ | 9 高齢者領域のケアマネジメント |
| 3 ケアマネジメントにおける生活ニーズと社会資源 | 10 介護保険法とケアマネジメント |
| 4 ケアマネジメントプロセス・その1 | 11 障害者領域のケアマネジメント |
| 5 ケアマネジメントプロセス・その2 | 12 障害者自立支援法とケアマネジメント |
| 6 ケアマネジメントプロセス・その3 | 13 児童領域のケアマネジメント |
| 7 ケアマネジャーの機能と役割 | 14 今後への課題 |
| | 15 定期試験 |

〔テキスト〕 適宜紹介と配布資料

〔参考文献〕 新版・社会福祉学習双書編集委員会／編『新版・社会福祉学習双書ケアマネジメント論』（全国社会福祉協議会）、白澤政和・橋本泰子・竹内考仁監修『ケアマネジメント講座①ケアマネジメント概論』（中央法規）、その他適宜紹介

〔授業形態〕 講義・演習

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、レポート・演習等 20%、平常点 10%

25149

① 臨床心理学

S

茂木 洋

臨床心理学

② 臨床心理学

〔授業題目〕 理解と関わりを考える

〔概要〕 臨床心理学は、人の心を理解し関わっていくための実践の学である。この講義ではまず、心理学的援助とはどのようなものかを近接領域との対比から学んだ上で、無意識・性格・心の病といった重要な概念を紹介する。さらに、心理療法のさまざまな理論について学んでいく。

〔到達目標〕 心と社会のつながりに関する心理学的諸テーマを理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 臨床心理学とは | 9 理解を深める |
| 2 ソーシャルワーカーとカウンセラー | 10 さまざまな学派① |
| 3 「私」について考える | 11 さまざまな学派② |
| 4 こころの働き | 12 さまざまな学派③ |
| 5 性格について | 13 さまざまな学派④ |
| 6 性格の検査 | 14 カウンセラーとは |
| 7 心を病むとは | 15 定期試験 |
| 8 神経症と精神病 | |

〔テキスト〕 氏原・杉原編『臨床心理学入門 理解と関わりを深める』（培風館）

〔参考文献〕 授業中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 70%、小テスト等平常点 30%

25150

①人格発達論（編入生）

W 広瀬香織

人格発達論

②人格発達論

〔授業題目〕 人格発達心理学

〔概要〕 パーソナリティ理解の基本的な視点を、人間の関係性と発達変化の2つに定め、まず、パーソナリティ発達に関する基礎的な理論を学び、それらをふまえて、各発達段階における重要なテーマをとりあげる。

〔到達目標〕 人格発達心理学に関する基礎的な知識の習得・自己理解および他者理解の深化

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション（当日レポート方式の説明） | 8 社会性の発達 |
| 2 パーソナリティとは | 9 アイデンティティの形成と病理 |
| 3 パーソナリティのアセスメント | 10 中年期・高齢期におけるパーソナリティの発達 |
| 4 心の深層へのアプローチ | 11 文化とパーソナリティ |
| 5 自己意識と自己概念 | 12 家族とパーソナリティ |
| 6 学習による行動習慣の獲得 | 13 母性と子育ての比較行動学 |
| 7 愛着の発達 | 14 ストレスとパーソナリティ変容 |

〔テキスト〕 西川隆蔵・大石史博、『人格発達心理学』、ナカニシヤ出版

〔参考文献〕

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 当日レポート 100 %

25161

①カウンセリング理論（編入生）

S 広瀬香織

②カウンセリング理論

〔概要〕 カウンセリングに関する様々な理論について、それらの理論が生まれた歴史的・文化的・個人的背景にもふれながら、幅広く理論について学んでいくことを目的とする。

〔到達目標〕 カウンセリングの諸理論の理解

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 カウンセリングとは何か？ | 8 森田療法 |
| 2 精神分析 | 9 内観療法 |
| 3 分析心理学 | 10 コミュニティ心理学 |
| 4 パーソン・センタード・アプローチ | 11 カウンセリングにおける「出会い」 |
| 5 認知行動療法 | 12 アサーション・トレーニング（1） |
| 6 家族療法 | 13 アサーション・トレーニング（2） |
| 7 多面的アプローチ | 14 生きる意欲を育てることとは？ |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 適宜資料を配布する。

〔授業形態〕 講義・実習

〔成績評価の方法〕 中間レポート 40 %、期末レポート 40 %、平常点 20 %

25162

㉑家族社会学

W 平川 茂

家族社会学

㊦家族社会学

〔授業題目〕現代家族の特徴

〔概要〕家族を統制する原理は、戦前の「イエ制度」から戦後1960年代までの「夫の経済力」、そして現在の「愛情」へと変化してきた。授業ではこの「愛情中心家族」の内実をくわしく見る。

〔到達目標〕①主要概念の理解②家族を統制する原理の変化の理解③「愛情中心家族」の夫婦関係および親子関係の特徴の理解

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 家族という不思議な集団 | 9 離婚 |
| 2 家族と世帯 | 10 母親と子の一体感 |
| 3 直系家族 | 11 父親の不在 |
| 4 核家族 | 12 親業 |
| 5 現代家族の特徴 | 13 少子化 |
| 6 夫婦の決定権のあり方 | 14 家族のこれから |
| 7 夫婦の役割分担のあり方 | 15 定期試験 |
| 8 夫婦のコミュニケーションのあり方 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕岩上真珠 『ライフコースとジェンダーで読む家族』（有斐閣）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験50%、平常点50%

25163

㉑現代社会論（編入生）

S 大関雅弘

現代社会論

㊦現代社会論

〔授業題目〕「日本型市民社会」の展開

〔概要〕戦後日本の社会的成熟を「日本型市民社会」の形成という観点から把握する。それを通して、日本社会における市民社会の未成熟性と現代社会のシステム化の増大が相互補完的に進展する状況を検討する。

〔到達目標〕「日本型市民社会」という概念を理解し、それを現実の日本社会の状況に適用することにより、現代社会についての認識を深める。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション：「日本型市民社会」とは何か。 | 9 日本における自我の未熟性①：「甘え」と日本人 |
| 2 高度経済成長と日本社会① | 10 日本における自我の未熟性②：「日本的自我」 |
| 3 高度経済成長と日本社会② | 11 「自己決定」と社会システム |
| 4 日本的経営の成立と崩壊① | 12 「格差社会」のリスク問題 |
| 5 日本的経営の成立と崩壊② | 13 グローバル化における日本社会の課題 |
| 6 「豊かな社会」の消費行動 | 14 まとめ：「日本型市民社会」の可能性を考える |
| 7 消費主体と自己意識的“私” | 15 定期試験 |
| 8 “私”の時代の到来 | |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕講義中に適宜指示する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験50%、授業内レポート50%

25164

②地域社会学（編入生）

W 平川 茂

地域社会学

⑩地域社会学

〔授業題目〕地域の課題とその克服の取り組み

〔概要〕大都市、地方中小都市、郊外そして地方の条件不利地域は現在どんな課題をかかえ、それぞれその課題を克服するためにどんな取り組みをしているかを詳しく見る。

〔到達目標〕①主要概念の理解②地方中小都市の「まちづくり」および郊外の「コミュニティづくり」の手法の理解③地方の条件不利地域の困難さの理解

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1 都市・郊外・地方と地域 | 9 まちづくり三法 |
| 2 大都市の中心市街地商店街 | 10 地方の条件不利地域 |
| 3 都市的生活様式 | 11 郊外の歴史 |
| 4 地方中小都市の中心市街地商店街 | 12 郊外的生活様式 |
| 5 商店街問題からまちづくり問題へ | 13 郊外ニュータウンの高齢化 |
| 6 長浜市のまちづくり | 14 コミュニティづくり |
| 7 高山市のまちづくり | 15 定期試験 |
| 8 青森市のまちづくり | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕森岡清志編『地域の社会学』（有斐閣）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50 %、平常点 50 %

25301

社会福祉原論Ⅰ

S 名和月之介

⑩社会福祉原論Ⅰ

〔授業題目〕社会福祉の考え方と実践

〔概要〕社会福祉の社会科学的視座と視点を明らかにし、前近代社会と近代社会の類型的分析を通して、社会福祉の認識対策や援助形態ならびに専門性や国際性について概説する。

〔到達目標〕歴史的・社会的な社会福祉の構造的把握を前提とし、主体と客体、役割と機能、制度と根拠法、ならびに国際社会福祉の動向と課題を考える。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1 社会福祉の概念と枠組み（1） | 8 欧米における社会福祉の史的展開 |
| 2 “ ”（2） | 9 社会福祉の援助対象 |
| 3 社会福祉と関連諸施策 | 10 社会福祉のニーズ（1） |
| 4 社会福祉の思想と倫理（1） | 11 “ ”（2） |
| 5 “ ”（2） | 12 社会福祉の法制度（1） |
| 6 日本における社会福祉の史的展開（1）近代まで | 13 “ ”（2） |
| 7 “ ”（2）近現代 | 14 民間社会福祉活動 |
| | 15 まとめと定期試験 |

〔テキスト〕新版・社会福祉士養成講座 社会福祉原論（中央法規出版）

〔参考文献〕中垣昌美著『社会福祉学原論』（さんえい出版）

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、クイズテスト・レポート平常点等 30 %

25302

社会福祉原論Ⅱ

W 名和月之介

⑩社会福祉原論Ⅱ

〔授業題目〕社会福祉の制度とサービス

〔概要〕社会福祉の制度・サービス・政策の体系化を前提として、保健・医療などの関連分野との連携のあり方も含めて、社会福祉援助の形態・方法・範囲についての基礎的な理解を深める。

〔到達目標〕施設福祉・在宅福祉ならびに地域福祉におけるソーシャルワーカーの任務と役割、資格法意義と内容、特に保育士の専門性と倫理について学習する。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 社会福祉援助の意味 (1) | 9 社会福祉援助の評価システム |
| 2 〃 (2) | 10 社会福祉の専門性 |
| 3 社会福祉援助の方法 (1) | 11 社会福祉の職員組織 |
| 4 〃 (2) | 12 社会福祉の諸資格 |
| 5 社会福祉と関連諸サービス | 13 社会福祉士制度 |
| 6 社会福祉機関・施設の組織と運営 (1) | 14 社会福祉の動向と展望 |
| 7 〃 (2) | 15 まとめと定期試験 |
| 8 社会福祉援助の利用と支援 | |

〔テキスト〕新版・社会福祉士養成講座 社会福祉原論 (中央法規出版)

〔参考文献〕中垣昌美著『社会福祉学原論』(さんえい出版)

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、クイズテスト・レポート平常点等 30 %

25307

社会福祉援助技術演習Ⅰ

S 鳥海直美 調 龍信 鈴木大介 寺添証顕 広瀬美千代

⑩社会福祉援助技術演習Ⅰ

〔授業題目〕援助技術の活用能力・態度の育成

〔概要〕社会福祉援助技術に関する講義等と関連させながら、福祉の利用者の具体的な事例を取りあげて、社会福祉援助技術を考察することができるよう、演習形態により学習を進める。

〔到達目標〕学生の個別及び集団指導を通じて、専門的な援助技術の基礎となる知識と技術を、様々な場面で実際に活用できる能力と態度を育てる。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 オリエンテーション | 式) |
| 2～6グループディスカッション | 10～13グループによる事例検討 |
| (1) 社会福祉援助技術演習の意義・目的 | ①児童への援助 |
| (2) 福祉専門職と専門援助技術の関係 | ②老人への援助 |
| (3) 社会福祉援助活動の原則 | ③知的障害(児)者への援助 |
| ①人権尊重 ②権利擁護 ③自立支援 | 14～15評価とまとめ |
| 7～9社会福祉援助技術論Ⅰの概念整理(発表形 | |

〔テキスト〕なし

〔参考文献〕適宜必要に応じて紹介。

〔授業形態〕演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕レポート(課題提出を含む)60%、受講態度など平常点40%

25308

社会福祉援助技術演習Ⅱ

W 鳥海直美 調 龍信 鈴木大介 寺添証顕 広瀬美千代

⑩社会福祉援助技術演習Ⅱ

〔授業科目〕 援助技術の活用能力・態度の育成

〔概要〕 社会福祉援助技術に関する講義等と関連させながら、福祉の利用者の具体的な事例を取りあげて、社会福祉援助技術を考察することができるよう、演習形態により学習を進める。

〔到達目標〕 学生の個別及び集団指導を通じて、専門的な援助技術の基礎となる知識と技術を、様々な場面で実際に活用できる能力と態度を育てる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| 1～2グループによる事例研究 | 7～9社会福祉援助技術現場実習A期間中 |
| ④身体障害（児）者への援助 | 10～12実習後の問題点の整理（専門的援助技術の考察） |
| 3～5現場実習Aに向けての具体的な課題設定（発表及び個別指導） | 13 実習先評価をふまえての問題点の整理 |
| 6 実習記録のまとめ方（ディスカッション形式） | 14～15評価とまとめ |

〔テキスト〕 なし

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介。

〔授業形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60%、受講態度など平常点40%

25328

老人福祉論Ⅰ

S 笠原幸子

⑩老人福祉論Ⅰ

〔授業科目〕 老人福祉論Ⅰ

〔授業の概要及び到達目標〕 高齢社会、長寿社会における高齢期の生き方とその新しい意義について学習する。そのために高齢期の心身の特性を感覚、身体、精神、生活機能、疾病及び心理に関して、全生涯における各ライフステージとの関連でとらえる。同時に社会生活上の特性についてもライフイベント、社会・家族・人間関係及び年齢差別等に関して学習し、高齢期における社会福祉課題について高齢者の主体的側面からとらえる。これらをとらえて現代社会における高齢者福祉の理念、特に地域福祉との関連性等について学習するとともに、高齢者福祉の歴史的展開を日本の場合を中心に考察し、現代における高齢者福祉を捉え直す。最後に、新たにスタートした介護保険制度をはじめ、社会福祉基礎構造改革もふまえて、高齢者福祉関連の法体系、制度体系を述べ、日本と世界の制度的比較を試み、Ⅱにつなげる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 少子高齢化の到来と家族構成の変化等 | 9 老人福祉法におけるサービス提供に関わる関係職員 |
| 2 高齢者を取り巻く状況の変化 | 10 老人福祉法と保健医療サービスとの連携 |
| 3 老人福祉の課題と対応 | 11 老人福祉法の目的と理念 |
| 4 高齢者の日常生活の考察 | 12 保健事業と老人医療等 |
| 5 私の高齢者感・50年後の私の生活（発表） | 13 老人保健施設と老人訪問看護制度糖 |
| 6 老人福祉法の目的と理念 | 14 高齢者をめぐるサービスマップづくり |
| 7 老人福祉法のサービスの変遷 | 15 定期試験及び総括 |
| 8 老人福祉法のサービス関係推進機関と財政システム | |

〔テキスト〕 笠原幸子著『シリーズ基礎からの社会福祉③老人福祉論』（ミネルヴァ書房）

〔参考文献〕 講義の際、適宜紹介する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験60%、小テスト・レポート提出等20%、出席状況20%

25349

レクリエーション活動援助法Ⅱ

W 奥野孝昭

⑩レクリエーション活動援助法Ⅱ

〔授業題目〕レクリエーション活動の実践

〔概要〕レクリエーション活動を計画し、実践する。互いに評価することで、計画および実施方法、また支援者の態度について学ぶ。

〔到達目標〕利用者の状況に合わせてプログラムを工夫すると共に、安全面等への配慮ができるようになること。

〔授業計画〕

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 レクリエーション支援論 | 9 レクリエーション活動の発表② |
| 2 目的にあわせたレク・ワーク① | 10 レクリエーション活動の発表③ |
| 3 目的にあわせたレク・ワーク② | 11 レクリエーション活動の発表④ |
| 4 対象にあわせたレク・ワーク① | 12 レクリエーション活動の発表⑤ |
| 5 対象にあわせたレク・ワーク② | 13 レクリエーション活動の発表⑥ |
| 6 レクリエーション活動計画① | 14 活動発表の評価 |
| 7 レクリエーション活動計画② | 15 定期試験 |
| 8 レクリエーション活動の発表① | |

〔テキスト〕浅野祥三他、『レクリエーション支援の基礎～楽しさ・心地よさを活かす理論と技術～』、(財)日本レクリエーション協会

〔参考文献〕講義の際、適宜紹介する。

〔授業形態〕講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕定期試験 40%、発表・平常点 60%

25350

医学概論Ⅰ

S 倉田義之

⑩医学概論Ⅰ

〔授業題目〕病気の基礎的知識Ⅰ

〔概要〕人体の基本的な構造や機能について理解を持つことは、福祉従事者には不可欠のことである。医学概論Ⅰでは、人体の基本的な構造や機能について理解させ、医療・保健の各分野の概要および現代社会において見られるさまざまな疾病について学び、公衆衛生の現状についても併せ学習する。こうした知識をもとに、福祉従事者と保健・医療機関との連携をはかる。

〔到達目標〕医学的常識を幅広く吸収し、高齢者の病気、身体障害者の病気などに対し、理解するとともに知識をもって他の関係者と対話できるようになることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------|--------------------------------------|
| 1 人体の構造・機能 | 10 現代社会と疾患 |
| 2 一般臨床医学 | 11 ①神経・精神疾患、ストレスマネジメン
ト ②先天性疾患、難病 |
| 3 ①内科 | 12 公衆衛生の現状 |
| 4 ②外科 | 13 ①人口動態 |
| 5 ③整形外科 ④神経・精神科 | 14 ②疾病と受療状況 ③医療関係者・医療
施設 |
| 6 医学と他の科学の関係 | 15 定期試験とまとめ |
| 7 現代社会と疾病 | |
| 8 ①ガン、生活習慣病 | |
| 9 ②肥満、拒食症・過食症 ③各種感染症 | |

〔テキスト〕

〔参考文献〕著者名 川崎市立川崎病院、書名 『知りたいことがすぐわかる病態生理 疾患編』、出版社名 へるす出版

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 50%、小テスト 50%

25361

医学概論Ⅱ

W 倉田義之

⑩医学概論Ⅱ

〔授業題目〕 病気の基礎的知識Ⅱ

〔概要〕 医学概論Ⅰをうけ、ライフステージごとの心身の健康問題、医学的リハビリテーションの概要、さらにはターミナルケアや脳死の問題も含めて、現在の医療が抱えているさまざまな問題について考える。こうした問題と関連させ、医療法制的概要と保健医療対策の現状についても理解させる。

〔到達目標〕 医学的常識を幅広く吸収し、高齢者の病気、身体障害者の病気などに対し、理解するとともに知識をもって他の関係者と対話できるようになることを目標とする。

〔授業計画〕

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 1～4ライフステージにおける健康の諸問題 ① | 9 病態論（生活習慣病） |
| 幼年期 ②青年期 ③中年・熟年期 ④老年期 | 10 保健医療対策の現状 |
| 5 医学的リハビリテーションの概要 | 11 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 |
| 6 人間の生命と生命科学 | 12 21世紀における医学 |
| 7 ターミナルケア・脳死 | 13 健康保険制度 |
| 8 医事法制的概要 医療法・医事法・保健師・助産師・看護師法 | 14 病院機構 |
| | 15 定期試験とその解説 |

〔テキスト〕

〔参考文献〕 著者名 川崎市立川崎病院、書名 『知りたいことがすぐわかる病態生理 疾患編』、出版社名 へるす出版

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 50 %、小テスト 50 %

25389

医療福祉論 A

S 鎌谷勇宏

⑩医療福祉論 A

〔授業題目〕 保健・医療サービスについて学ぶ

〔概要〕 保健・医療サービスについて、社会福祉を学ぶ立場からアプローチする。特に保健・医療の制度体系と、サービス提供を行う専門職に力点を置く。

〔到達目標〕 保健・医療制度を体系的に認識するとともに、そこでの専門職の役割と実際について理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション | 10 保健・医療サービスの全体像の確認 |
| 2 社会保障制度における保健と医療 | 11 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 |
| 3 医療保険制度 | 12 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 |
| 4 診療報酬体系 | 13 医療ソーシャルワーカー（MSW）の役割と実際 |
| 5 医療がおかれている状況 | 14 保健・医療・福祉の連携 |
| 6 専門職がおかれている状況 | 15 定期試験とまとめ |
| 7 乳幼児・高齢者医療 | |
| 8 障がい者（児）・難病患者医療 | |
| 9 医療関係法 | |

〔テキスト〕 講義時指示する

〔参考文献〕 講義中適宜指示する

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 定期試験 80 %、平常点等 20 %

25390

医療福祉論 B

W 鎌谷勇宏

⑩医療福祉論 B

〔授業科目〕医療・福祉政策を体系的に学ぶ

〔概要〕日本の医療と福祉がおかれている状況について、国際比較や社会保障史からアプローチする。また、医療政策と福祉政策の関係について説明する。

〔到達目標〕社会保障制度における医療と福祉の位置づけや、その関係性について理解する。

〔授業計画〕

1 オリエンテーション	6 社会保障制度における福祉	11 医療と福祉の国際比較
2 福祉政策の歴史	7 現在の医療政策	12 医療と福祉の国際比較
3 医療政策の歴史	8 現在の福祉政策	13 医療と福祉の位置づけ
4 医療と福祉の関係史	9 医療問題	14 医療と福祉の関係性
5 社会保障制度における医療	10 福祉問題	15 定期試験とまとめ

〔テキスト〕講義時指示する

〔参考文献〕講義中適宜指示する

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 80 %、平常点等 20 %

25401

社会福祉経営論 A

S 立岡 浩

⑩社会福祉経営論 A

〔授業科目〕福祉経営の基本 I

〔概要〕福祉経営に関する基礎知識及び管理運営方法について習得する。

〔到達目標〕福祉サービスを提供する組織や団体の運営に係る基礎理論、及び福祉サービスの管理運営の方法と実際について理解する。

〔授業計画〕

第1回 福祉サービスにおける組織と経営の意義	4：マーケティング管理
第2回 福祉サービスを取り巻く組織と団体の役割	第9回 福祉サービスにおける管理運営の基本機能
第3回 福祉サービスの体系と法・制度	5：情報管理
第4回 福祉サービスの組織と経営の基礎理論	第10回 福祉サービスの財源
第5回 福祉サービスにおける管理運営の基本機能	第11回 福祉サービスのリーダーシップ
1：サービス業務管理	第12回 福祉サービスのガバナンス
第6回 福祉サービスにおける管理運営の基本機能	第13回 福祉サービス提供体制の確保
2：人事・労務管理	第14回 福祉サービス提供組織における人材育成と労働環境整備
第7回 福祉サービスにおける管理運営の基本機能	第15回 福祉サービスの管理運営の動向・実際
3：会計・財務管理	
第8回 福祉サービスにおける管理運営の基本機能	

〔テキスト〕1) 立岡浩・川村匡由・桜井政成・千葉正展編 (2009 予)『福祉サービスの組織と経営』久美出版
 2) 久門道利・西岡修編 (2009)『福祉サービスの組織と経営 (社会福祉士シリーズ 11)』弘文堂。
 3) 武居敏・藤井賢一郎編 (2009)『福祉サービスの組織と経営 (新・社会福祉士養成講座 11 巻)』中央法規。

〔参考文献〕1) 新版・社会福祉学双書編集委員会 (2009)『社会福祉施設運営 (経営) 論』全国社会福祉協議会。
 ※その他随時紹介。

〔授業形態〕講義・発表・討論・報告

〔成績評価の方法〕期末レポート 60 %、小テスト 10 %、授業毎ミニレポート 10 %、発表・討論等の平常点 20 %。

25402

社会福祉経営論B

W 立岡 浩

⑩社会福祉経営論B

〔授業題目〕福祉経営の基本II

〔概要〕福祉サービスの組織・団体を経営の視点から捉え、福祉を取り巻く種々の経営課題とその解決への処方箋を検討し、これからの福祉経営のあり方を考察する。

〔到達目標〕福祉サービスをめぐる諸事象を、経営学的視点において把握する熟練感覚の養成と専門知識の習得を目標とする。

〔授業計画〕

第1回オリエンテーション—社会福祉経営論Bとは—

第9回福祉事業の経営改革とイノベーション

第2回高齢者福祉事業の経営

第10回福祉事業のグローバル&コミュニティ・ブランド戦略

第3回子ども福祉事業の経営

第11回福祉事業のリスクマネジメント(1)

第4回障害者福祉事業の経営

第12回福祉事業のリスクマネジメント(2)

第5回福祉事業のIT・情報セキュリティ

第13回福祉事業の環境経営とISO

第6回福祉事業の経営分析と税務

第14回福祉事業のNPMと政策評価

第7回福祉事業の最新経営戦略(1)

第15回総括

第8回福祉事業の最新経営戦略(2)

〔テキスト〕1) 家里誠一(2008)『医療・福祉複合時代のマネジメントと病院組織』産業能率大学出版部。2) 羽生正宗(2008)『社会福祉マネジメント戦略：ガバナンスの確立と財務基盤強化のために』大蔵財務協会。3) 立岡浩・川村匡由・桜井政成・千葉正展編(2009)『福祉サービスの組織と経営』久美出版

〔参考文献〕1) 深瀬勝範(2007)『社会福祉法人の事業シミュレーション・モデル』中央経済社。2) ヘルスケア総合政策研究所編(2008)『介護経営白書』日本医療企画。3) 渡辺孝雄(2006)『医療・福祉サービスの経営戦略』じほう。※その他随時紹介。

〔授業形態〕講義・発表・討論・報告

〔成績評価の方法〕期末レポート60%、小テスト10%、授業毎ミニレポート10%、発表・討論等の平常点20%。

25407

精神病態論

W 武中美佳子

⑩精神病態論

〔授業題目〕心の病と関わり方

〔概要〕ヒューマンサービスに携わる人々にとって心の病気の理解は必須の学習領域である。心の病気の理解、対応法について、代表的な事例を通して学ぶ。

〔到達目標〕精神障害に関する知識の習得。自己や他者理解にも役立つ。

〔授業計画〕

1 精神障害のオリエンテーション

9 幻覚・妄想とはなにか

2 精神障害の分類

10 統合失調症

3 ストレスチェック・心身症

11 身体疾患から起こる精神障害

4 不安を巡る様々な事例

12 脳とこころ

5 ヒステリーとは

13 認知症・老年期心理

6 気分障害

14 ライフサイクルと精神障害

7 適応障害・人格障害を考える

15 定期試験

8 摂食障害・PTSDとは

〔テキスト〕堀川直史、野村総一郎編集『精神科必修ハンドブック』(羊土社)

〔参考文献〕適宜紹介

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験70%、授業態度30%

25443

社会福祉援助技術論Ⅲ

S 畑智恵美

㊦社会福祉援助技術論Ⅲ

〔授業題目〕社会福祉援助の理論・専門的技術・知識を学ぶ

〔概要〕相談援助を含む社会福祉援助活動における援助関係の概念を学ぶ。援助関係において求められる専門職の倫理・価値を基本に、専門的技術や援助関係の形成方法を学ぶ。その上で、相談援助の際に求められる面接技術の意義、目的、方法、留意点を学ぶ。相談援助を含む社会福祉援助活動の過程（プロセス）に沿って、それぞれの意義、目的、価値、原則、内容、技術を学ぶ。専門的技術を体系的に学ぶ

〔到達目標〕相談援助を含む社会福祉援助活動における専門援助技術が体系的に理解できる。相談援助専門職の倫理・価値・原則を基本に、援助関係の意義や目的、援助関係形成の方法が理解できる。相談援助の際に求められる面接技術の意義、目的、方法、留意点が理解できる。相談援助の過程（プロセス）（インテーク、アセスメント、支援計画作成、支援の実施、モニタリングと評価、終結と効果測定、アフターケア）の意義、目的、内容、具体的技術が理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---|---|
| 1 相談援助を含む社会福祉援助活動における専門職と利用者の関係性と原則（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む） | 8 相談援助プロセス4 モニタリング（経過観察）と援助活動の評価 |
| 2 相談面接を含む社会福祉援助活動の意義・目的・価値、専門援助技術と専門職の倫理・価値 | 9 相談援助プロセス5 支援の終結と効果測定 |
| 3 社会福祉援助活動としての相談援助プロセスの全体像と関連する専門援助技術の共通課題
①契約・介入・課題の意義と方法 ②面接・記録・評価の意義と方法 | 10 相談援助プロセス6 アフターケア、援助過程全体に対する振り返りと評価 |
| 4 社会福祉援助活動における相談面接の技法と留意点 | 11 社会福祉援助活動の場と専門的援助技術1 高齢者の事例で学ぶプロセスと専門的援助技術 |
| 5 相談援助プロセス1 援助開始時：インテーク（受理面接）、アセスメント（事前評価） | 12 社会福祉援助活動の場と専門的援助技術2 障害者の事例で学ぶプロセスと専門的援助技術 |
| 6 相談援助プロセス2 プランニング（援助計画の作成） | 13 社会福祉援助活動の場と専門的援助技術3 子育て支援の事例で学ぶプロセスと専門的援助技術 |
| 7 相談援助プロセス3 支援（援助活動）の実施 | 14 社会福祉援助活動の場と専門的援助技術4 低所得者支援の事例で学ぶプロセスと専門的援助技術 |
| | 15 まとめ（専門援助技術の統合化）と定期試験 |

〔テキスト〕開講時に指示する

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験（70％）、平常点（受講態度等）（30％）

25444

社会福祉援助技術論Ⅳ

W 畑智恵美

㊦社会福祉援助技術論Ⅳ

〔授業科目〕社会福祉援助の理論・専門的技術・知識を学ぶ

〔授業全体の内容の概要〕相談援助の際に必要なとされる技法としてのケアマネジメント、アウトリーチ、社会資源開発、ネットワーキング、チームアプローチの意義、目的、方法、留意点を学ぶ。事例分析、事例研究の意義や方法を学ぶ。具体的援助事例を活用しながら、相談援助の実際の場面で、どのように技術、知識、倫理、価値が求められるかを学ぶ。関連する専門援助技術としての地域援助技術や社会福祉調査法、社会福祉の運営・計画について学ぶ。

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕相談援助の際に必要なとされる技法としてのケアマネジメント、アウトリーチ、社会資源開発、ネットワーキング、チームアプローチの意義、目的、方法、留意点が理解できる。事例研究（事例分析）に取り組むことができる。権利擁護活動などの実際の相談援助の意義や方法が具体的に理解できる。専門援助技術としての地域援助技術や社会福祉調査法、社会福祉の運営・計画について理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1 ケアマネジメントの定義、歴史、意義と目的 | 9 社会福祉調査法の理論（概念、目的、基本的性格、類型）と技術の活用（統計調査と事例調査） |
| 2 ケアマネジメントプロセス1 ケース発見、インテーク、アセスメント | 10 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）・計画、および様々な社会福祉援助活動の場における専門援助技術の実際（事例研究（事例分析）の意義、目的、方法を活用する） |
| 3 ケアマネジメントプロセス2 目標設定、計画作成（介護保険法における居宅・施設サービス計画を含む） | 11 高齢者の事例（虐待や生活支援など）を用いた事例研究と専門的援助技術 |
| 4 ケアマネジメントプロセス3 ケア会議、計画実施、モニタリング | 12 障害者の事例（就労支援や生活支援など）を用いた事例研究と専門的援助技術 |
| 5 アウトリーチ（地域に出向く）の意義、目的、および権利擁護活動の意義、目的 | 13 子育て支援の事例（児童虐待、母子・父子家庭支援、育児支援など）を用いた事例研究と専門的援助技術 |
| 6 利用可能な社会資源を知る。見つけ出す、調整、活用 | 14 相談援助専門職に求められる倫理、価値、知識 |
| 7 社会福祉援助活動としての相談援助やケアマネジメントプロセスに求められる連携・チームアプローチ・サービス提供者間のネットワーキング（実務講義を通して学ぶ） | 15 まとめ（専門援助技術の統合化とチームアプローチの意義）と定期試験 |
| 8 地域援助技術の理論（概念と基本的性格）、地域援助技術の内容とその活用（地域のネットワーキング（地域社会の組織化）） | |

〔テキスト〕開講時に指示する

〔参考文献〕適宜、必要に応じて紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験（70%）、小レポート（10%）、平常点（受講態度等）（20%）

25463

社会福祉援助技術現場実習指導A

S・W 大西敏浩 信田光子 上田早記子 調 龍信

⑩社会福祉援助技術現場実習指導A

社会福祉援助技術現場実習A

⑩社会福祉援助技術現場実習A

〔授業題目〕社会福祉援助技術の知識と実践

〔概要〕社会福祉施設での実習（3週間）を実施する。事前指導では実習の意義、目的、ソーシャルワーカーの視点を学び、事後学習では知識と体験学習を統合させ社会福祉援助技術に対する具体的理解を深める。

〔到達目標〕社会福祉施設の現状を理解し、施設利用児者に対する福祉サービスの方法（社会福祉援助技術）を学び、ソーシャルワーカーの役割を認識する。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション レポート提示 | 16 オリエンテーション |
| 2 社会福祉援助技術現場実習Aの説明 | 17 実習ノートの書き方① |
| 3 実習施設での実習態度について① | 18 実習ノートの書き方② |
| 4 実習施設での実習態度について② | 19 実習ノートの書き方③ |
| 5 対人支援について | 20 参加実習直前指導① |
| 6 福祉施設実務者講義① | 21 参加実習直前指導② |
| 7 福祉施設実務者講義② | 22 参加実習 |
| 8 福祉施設実務者講義③ | 23 参加実習（巡回指導） |
| 9 実習計画について① | 24 参加実習 |
| 10 実習計画について② | 25 グループ別体験交流 |
| 11 事前学習について① | 26 グループ別体験交流 |
| 12 事前学習について② | 27 グループ別体験交流 |
| 13 事前学習について③ | 28 グループ別体験交流（自己評価） |
| 14 先輩からのアドバイス（パネルディスカッション） | 29 B実習にむけて説明 |
| 15 配属施設種別の発表、夏期休暇中の課題 | 30 まとめ |

〔テキスト〕福祉小六法編集委員会編『福祉小六法 2009年度版』（株みらい）

〔参考文献〕『福祉の仕事ガイドブック 2009年度版』中央法規

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表・討論

〔成績評価の方法〕配属実習先の評価 40%、実習日誌、課題レポート 30%、平常点 30%

25468

人間福祉基礎演習Ⅰ

S

信田光子

⑩人間福祉基礎演習Ⅰ

〔授業科目〕社会福祉専門職とは

〔概要〕大学での学び方を中心に展開し、社会福祉士・保育士等の福祉専門職を目指す上での基本姿勢（社会的スキル）や社会福祉を学ぶモチベーションの形成・促進等を学生相互の発表や討論を通じて学ぶ。

〔到達目標〕グループディスカッションや体験学習を通して、卒業後の進路としての社会福祉専門職についての理解と学生としてのライフスタイルの確立をめざす。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 オリエンテーション① | 9 高齢者にかかわる仕事② |
| 2 オリエンテーション② | 10 子ども・女性にかかわる仕事① |
| 3 人間福祉とは① | 11 子ども・女性にかかわる仕事② |
| 4 人間福祉とは② | 12 身体障害者にかかわる仕事 |
| 5 社会福祉士とは | 13 精神障害者にかかわる仕事 |
| 6 保育士とは | 14 社会福祉専門職とは |
| 7 精神保健福祉士とは | 15 関連する資格・職種 |
| 8 高齢者にかかわる仕事① | |

〔テキスト〕河村匡由 著 『福祉の仕事ガイドブック』 中央法規、『国民の福祉の動向 2009』 厚生統計協会

〔参考文献〕福祉小六法編集委員会編 「福祉小六法 2009 年版」又は「保育福祉小六法 2009 年版」 (株)みらい

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表・対話・討論

〔成績評価の方法〕定期試験にかかわるレポート 60 %、平常点 40 %

25469

人間福祉基礎演習Ⅱ

W

信田光子

⑩人間福祉基礎演習Ⅱ

〔授業科目〕社会福祉専門職の資質

〔概要〕「実践の学」としての社会福祉学を演習形式で学習する。したがって学生は日常生活における課題を取り上げて、福祉的解決の必要性に気づき、専門分野の学習の意義について理解する。

〔到達目標〕現在の社会福祉専門職に必要な資質に気づき、人間にかかわるすべての社会福祉分野について学習する必要性を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 慮) |
| 2 福祉の仕事 | 9 福祉の現場で求められるものⅣ（生活について考える） |
| 3 低所得者にかかわる仕事 | 10 福祉の現場で求められるものⅤ（啓蒙） |
| 4 行政にかかわる仕事 | 11 グループ研究Ⅰ（「支援」について） |
| 5 そのほかの専門職 | 12 グループ研究Ⅱ |
| 6 福祉の現場で求められるものⅠ（人権意識） | 13 グループ研究Ⅲ |
| 7 福祉の現場で求められるものⅡ（傾聴、共感） | 14 発表・まとめ |
| 8 福祉の現場で求められるものⅢ（他者への配 | |

〔テキスト〕河村匡由 著 『福祉の仕事ガイドブック 2009』 中央法規、『国民の福祉の動向 2008』 厚生統計協会

〔参考文献〕講義中適宜指示する。

〔授業形態〕講義・演習・実習・発表

〔成績評価の方法〕発表 40 %、課題レポート 40 %、平常点 20 %

25481

人間福祉講読演習Ⅱ

W 平川 茂 茂木 洋 名和月之介

㊤人間福祉講読演習Ⅱ

〔概要〕 次の3つの分野に関する、基本的な文献を読む。①貧困問題、②心理臨床、③福祉思想。その際、文献に書かれていることを精確につかんだ上で、議論し、理解を深めるようにする。

〔到達目標〕 文献の精読と議論を通して、「講読演習Ⅰ」で得たスキルをさらに磨き、今後の研究のために必要な力をつける。

〔授業計画〕

1 全体オリエンテーション	6 レポート作成 (1)	11 レポート作成 (2)
2 発表・討論①	7 発表・討論⑤	12 発表・討論⑨
3 発表・討論②	8 発表・討論⑥	13 発表・討論⑩
4 発表・討論③	9 報告・討論⑦	14 レポート作成 (3)
5 発表・討論④	10 発表・討論⑧	

〔テキスト〕

〔参考文献〕 岩田正美他編 『社会福祉研究法』 (有斐閣)

〔授業形態〕 演習

〔成績評価の方法〕 定期試験に代わるレポート 50%、平常点 50%

25576

㊤ケースマネジメント論B

W 畑智恵美

〔授業題目〕 ストレングスマデルを学ぶ

〔概要〕 ケースマネジメント論Aの理解の上に学修を進める。新しいケアマネジメントとして注目されているストレングスマデルを学修する。その上で、実践事例を用いた演習などを通して、具体的にケアマネジメントの援助過程や専門職としての視点(倫理、価値)を学ぶ。さらにケアマネジメント援助の質的向上に向けての課題について考え、理解を深める。

〔到達目標〕 事例課題に対して、アセスメントからケアプラン作成までの一連のケアマネジメントプロセスを模擬的に実践できる。

〔授業計画〕

1 基本的ケアマネジメントプロセス	7 事例研究の方法と深め方
2 ストレングスマデルのケアマネジメント・その1(基本的理念)	8 事例研究①高齢者
3 ストレングスマデルのケアマネジメント・その2(高齢者)	9 事例研究②高齢者と家族
4 ストレングスマデルのケアマネジメント・その3(障害者)	10 事例研究③知的障害者・精神障害者
5 利用者の生活の理解とそれぞれの持つ強さの発見	11 事例研究④児童と家族
6 介護保険制度におけるケアマネジャーの役割の実際	12 グループ研究①: ケアマネジャーになってみよう
	13 グループ研究②: 利用者・家族の気持ちを支える
	14 ケアマネジメントの今後の課題

〔テキスト〕 適宜紹介と配布資料

〔参考文献〕 新版・社会福祉学習双書編集委員会/編 『新版・社会福祉学習双書ケアマネジメント論』 (全国社会福祉協議会)、白澤政和・奥西栄介・福富昌城編著 『介護支援専門員によるケアマネジメント事例集』 (2001 中央法規)、チャールズ・A・ラップ 『精神障害者のためのケースマネジメント』 (1998 金剛出版)、ベッキー・ファースト、ローズマリー・チャピン 『高齢者・ストレングスマデルケアマネジメント』 (2005 筒井書房)、その他適宜紹介

〔授業形態〕 講義・演習・発表

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、演習への取り組み等 40%

25624

㊦社会福祉調査法Ⅰ

W 指田隆一

〔概要〕【前提科目：なし】社会調査史と社会調査の意義、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、国勢調査と官庁統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項について解説する。平均、分散の計算を含む。

〔到達目標〕社会調査の意義・目的と歴史を理解する。また、基本的な社会調査の種類、量的と質的調査の実施の過程に関する専門用語、考え方と、社会調査の倫理を理解する。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 1 社会調査史（19世紀まで）【Web ページ】 | 資料検索） |
| 2 社会調査史（20世紀以降）【Web ページ】 | 9 調査票調査の手順（標本抽出） |
| 3 社会調査方法のバリエーション（観察、面接、調査、実験、質的、量的） | 10 調査票調査の手順（調査票作成、データ収集と整理） |
| 4 社会調査の目的・用途と意義 | 11 調査票調査の手順（集計・分析から報告まで） |
| 5 調査倫理【Web】ページ | 12 質的調査の手順（参与観察） |
| 6 調査の種類と実例（国勢調査と官庁統計、世論調査） | 13 質的調査の手順（面接） |
| 7 調査の種類と実例（マーケティング・リサーチ、学術調査） | 14 質的調査の手順（ドキュメント分析）【Web ページ】 |
| 8 調査票調査の手順（問題・理論から設計まで、 | 15 定期試験 |

〔テキスト〕酒井隆 2002、『調査・リサーチ活動の進め方』（日経文庫 855）、日本経済新聞社、Web ページ

〔参考文献〕適宜紹介する。

〔授業形態〕講義

〔成績評価の方法〕定期試験 100 %

25625

㊦社会福祉調査法Ⅱ

W 広瀬美千代

〔授業題目〕社会福祉における社会調査の概要

〔概要〕社会福祉における社会調査・その意義、目的方法の概要及び倫理などを学ぶ。調査に用いられる統計法の概要を学修するため、具体的に量的調査の方法及び質的調査の方法について学ぶ。

〔到達目標〕社会調査・社会福祉調査の意義、目的、方法の概要を理解し、倫理の重要性等に関して理解する。量的調査及び質的調査の方法を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|-------------------------------|----------------------------------|
| 1 社会調査・社会福祉調査の意義と目的 | 9 量的調査の方法 4 調査方法と留意点 |
| 2 社会調査・社会調査の歴史 | 10 量的調査の方法 5 調査の実施（配布と回収）、集計、統計法 |
| 3 調査方法の全体像と統計法（統計学）の活用 | 11 量的調査の方法 6 調査結果の分析と報告書の作成 |
| 4 社会調査・社会福祉調査における倫理・価値と個人情報保護 | 12 質的調査の方法 1 質的調査法の種類と特徴 |
| 5 調査目的・調査デザイン・調査プロセス | 13 質的調査の方法 2 質的データの整理と分析、報告書の作成 |
| 6 量的調査の方法 1 調査デザインの決定（種類と特徴） | 14 社会調査の実施における IT の活用方法 |
| 7 量的調査の方法 2 調査法の妥当性と信頼性 | 15 まとめと定期試験 |
| 8 量的調査の方法 3 サンプリング | |

〔テキスト〕坂田周一著『社会福祉リサーチ』（有斐閣アルマ）

〔参考文献〕適宜紹介する

〔授業形態〕講義・演習

〔成績評価の方法〕定期試験 70 %、小レポート 10 %、平常点（授業態度等）20 %

25643

㊤社会福祉援助技術演習Ⅲ

S

大西敏浩 川下維信 信田光子 調 龍信 鈴木大介 広瀬美千代

〔概要〕 要〕 グループディスカッションやロールプレイなどの実技指導を中心とする演習形式により、福祉利用者の具体的な援助事例を取りあげ、個別及び集団指導のもとで、専門的な援助技術を習得する。

〔到達目標〕 相談援助業務に必要な援助技術に関する実技指導を通して、面接技法や記録法などの専門的な援助技術を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 相談援助業務に必要な社会福祉援助技術の概念整理 | 5～7グループによる事例研究①児童相談所②福祉事務所③社会福祉協議会 |
| 2～4上手なコミュニケーションに欠かせない技法（ディスカッション及びロールプレイ）①上手な聞き方 ②上手なうなずき方③重要なことばの反復 | 8～9現場実習Bに向けての具体的な課題設定（発表形式）
10～13社会福祉援助技術現場実習B期間中
14 評価とまとめ |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介

〔授業形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60%、受講態度など平常点40%

25644

㊤社会福祉援助技術演習Ⅳ

W

大西敏浩 川下維信 信田光子 調 龍信 鈴木大介 広瀬美千代

〔概要〕 要〕 グループディスカッションやロールプレイなどの実技指導を中心とする演習形式により、福祉利用者の具体的な援助事例を取りあげ、個別及び集団指導のもとで、専門的な援助技術を習得する。

〔到達目標〕 相談援助業務に必要な援助技術に関する実技指導を通して、具体的な演習事例の事例研究を重ねることで、専門的な援助技術を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|--|--|
| 1～2実習後の問題点の整理—実習での具体的事例を用いて—（グループ討議）①何を受容するのか ②共感と同情のちがひ | 6～10今後の援助のあり方 —面接の構成要素—
①面接者について ②クライアントについて
③対象となる問題 ④望ましい面接場所⑤専門的な対人関係 |
| 3～5面接実技（ディスカッション及びロールプレイ）①行動観察（第一印象）について②対象者とのコミュニケーション—さりげない話題、対象者の関心事—③言語的・非言語的な働きかけ | 11 記録実技の指導
12～13事例研究
14 評価とまとめ |

〔テキスト〕 プリント配布

〔参考文献〕 適宜必要に応じて紹介

〔授業形態〕 演習・発表・グループでの討論、ロールプレイ、事例研究など

〔成績評価の方法〕 レポート（課題提出を含む）60%、受講態度など平常点40%

25652

㊤社会福祉援助技術現場実習B

S・W 鳥海直美 畑智恵美 信田光子 長谷範子 上田早記子 調 龍信

㊤社会福祉援助技術現場実習指導B

〔授業題目〕 ソーシャルワーク実習の意義と実践

〔概要〕 本学開講の社会福祉援助技術現場実習Ⅰ及び社会福祉援助技術現場実習Ⅱ（見学実習）、社会福祉援助技術現場実習指導及び実習A（参加実習）をふまえて、5・6セメスター中に各種社会福祉施設及び児童相談所・福祉事務所・各種更生相談所等の社会福祉サービスに関する相談・措置機関で配属実習（180時間）を実施し、その前後に事前・事後指導を行う。配属実習の経験を通じて、知識学習と体験学習を統合させ、社会福祉援助技術に対する具体的理解とソーシャルワーカーの業務や役割を認識する。

1) 実習前の実習課題設定・実習計画作成および事前学習等 ①実習の目的の明確化 ②配属実習の施設・機関の機能の理解 ③利用者の理解 ④健康状態の確認（健康診断一腸内細菌検査含む） ⑤実習先オリエンテーション

2) 実習中の実習課題 ①利用者との関わりを深め、関係を深める。 ②利用者とその生活実態を認識する。

③利用者およびその関係者の需要を理解するための能力を高め基本的な援助の実際を学ぶ。 ④施設・機関の目的や機能および運営の実態について理解する。 ⑤ソーシャルワーカーの業務や役割について理解し、自らの専門性も高める。 ⑥利用者の問題にかかわる関係機関の目的と機能を理解し、能力を養う。 ⑦専門職が施設・機関や地域の中でどのように位置づけられているかを知り、これを明確化する。 ⑧実習ノートは、実習先の実習指導者から効果的な指導を受けるための媒介であると同時に、各実習生が実習内容を自分のものとして深めていくための記録とする。

※日々の実習指導者及び週1回の教員による巡回指導時の個別指導により、①～⑧までの実習効果を上げる。

3) 実習後の実習課題 ①実習の総括並びに自己評価 ②実習ノートの活用 ③解決すべき自己の課題の明確化 ④実習レポートの作成

〔到達目標〕 社会福祉施設・機関における現場実習を通して、福祉サービスを利用する人々の日常生活やそのサービスのあり方を具体的に理解し、ソーシャルワークについての知識学習と体験学習を統合させ、実践力を身につける。

〔授業計画〕

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 16 実習終了後の全体総括 |
| 2 春休みの課題（事前学習）の見直し | 17 学生相互の体験交流（グループ別）① |
| 3 実戦現場の理解①（施設・機関、職員、利用者、社会資源の活用） | 18 学生相互の体験交流（グループ別）② |
| 4 実戦現場の理解②（施設・機関、職員、利用者、社会資源の活用） | 19 学生相互の体験交流（グループ別）③ |
| 5 実戦現場の理解③（施設・機関、職員、利用者、社会資源の活用） | 20 学生相互の体験交流（グループ別）④ |
| 6 実習計画の意義・目的等の理解 | 21 全体発表① |
| 7 実習課題設定 | 22 全体発表② |
| 8 実習計画書の作成 | 23 全体発表③ |
| 9 実習記録の意義・目的等の理解 | 24 実習終了後の実習記録について（全体指導及び個別指導） |
| 10 実習記録のまとめ方、事務的作業及び諸注意 | 25 実習の評価—課題到達度及び自己覚知等— |
| 11 実習直前指導、実習終了後の課題提示 | 26 解決すべき課題等の明確化（全体指導及び個別指導） |
| 12 現場実習期間中—巡回指導（週1回） | 27 福祉専門職の適性等—福祉専門職のあるべき姿— |
| 13 現場実習期間中—巡回指導（週1回） | 28 卒業後の進路 |
| 14 現場実習期間中—巡回指導（週1回） | 29 社会福祉士国家試験について |
| 15 現場実習期間中—巡回指導（週1回） | 30 まとめ |

〔テキスト〕 福祉小六法編集委員会編、『福祉小六法2009版』（榊みらい）

〔参考文献〕 授業時に紹介する

〔授業形態〕 講義・演習・実習・グループワーク・発表

〔成績評価の方法〕 配属先の評価40%、実習日誌及び課題レポート30%、平常点30%

25663

㊤人間福祉演習Ⅲ

S

原 順子 倉田義之 慎 英弘 奈倉道隆 橋本篤孝
和田謙一郎 平川 茂 萩原總一郎

〔授業題目〕人間福祉について理解する。

〔概要〕社会福祉の各領域に関連する現状分析と課題をテーマとして、グループ別学習を行う。グループ共通のテーマに合わせて設定した個別課題の研究成果を発表・討議し、必要な知識と方法を習得する。

〔到達目標〕人間福祉学の理解を一層深めるとともに学生の個別課題をグループで発表討論することで、個別課題の研究成果の獲得をめざす。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------------|---------|---------------|
| 1 オリエンテーション | 9 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 2 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 10 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 3 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 11 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 4 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 12 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 5 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 13 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 6 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 14 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 7 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 15 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 8 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | | |

〔テキスト〕適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔参考文献〕適宜、授業時に紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・討論・ゼミの編成については学生の主体的選択を優先するとともに、ゼミ担当教育との合意において決定する。

〔成績評価の方法〕レポート60%、平常点40%、自己評価を総合する。

25664

㊤人間福祉演習Ⅳ

W

原 順子 倉田義之 慎 英弘 奈倉道隆 橋本篤孝
和田謙一郎 平川 茂 萩原總一郎

〔授業題目〕人間福祉について理解する。

〔概要〕社会福祉の各領域に関連する現状分析と課題をテーマとして、グループ別学習を行うとともに、設定した個別課題の研究成果について個別指導を行う。

〔到達目標〕社会福祉の諸問題について考察するとともに、個別課題の研究成果をまとめ、その研究成果を今後に生かせるよう個別指導を行う。

〔授業計画〕

- | | | |
|----------------------|------------|---------------|
| 1 オリエンテーション | 8 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 2 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 9 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 3 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 10 個別ゼミ | 学生による発表と討論、指導 |
| 4 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 11 個別指導 | |
| 5 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 12 個別指導 | |
| 6 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 13 個別指導 | |
| 7 個別ゼミ 学生による発表と討論、指導 | 14 ゼミ全体の総括 | |

〔テキスト〕適宜、授業時に紹介する。プリント使用

〔参考文献〕適宜、授業時に紹介する。

〔授業形態〕演習・発表・討論・ゼミの編成については学生の主体的選択を優先するとともに、ゼミ担当教育との合意において決定する。

〔成績評価の方法〕レポート60%、平常点40%、自己評価を総合する。

25672

㊤人間福祉特殊講義 権利擁護と成年後見 W 和田謙一郎

〔授業全体の内容の概要〕 権利擁護と成年後見制度の役割と実際を学ぶ。法学（法律学）、高齢者福祉、障がい福祉等の学習をひと通り終えていることを前提にして、どのような場合に権利擁護が必要とされ、また、成年後見制度をいかに活用していくべきなのかをよく考えていく。（新国家試験に対応した講義とする）

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 相談援助活動と法、相談援助活動を通しての成年後見制度、成年後見制度の実際、権利擁護活動の実際を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 はじめに | 8 日常生活自立支援事業 |
| 2 相談援助活動と法（日本国憲法との関係において） | 9 成年後見制度利用支援事業 |
| 3 日本国憲法の基本原理の理解 | 10 権利擁護に係る組織・団体の役割と実際Ⅰ |
| 4 相談援助活動と法（民法との関係において） | 11 権利擁護に係る組織・団体の役割と実際Ⅱ |
| 5 相談援助活動と法（行政法との関係において） | 12 事前的権利擁護と事後的権利救済制度 |
| 6 成年後見制度の概要Ⅰ | 13 権利擁護活動の実際Ⅰ |
| 7 成年後見制度の概要Ⅱ | 14 権利擁護活動の実際Ⅱ |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕 開講時までに指示する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔[単位認定の方法及び基準]（試験やレポートの評価基準など）〕 レポート 60%、平常の成績 40%

25673

㊤人間福祉特殊講義 ソーシャルワーク概説 W 原 順子

〔概要〕 社会福祉サービスと専門援助活動の関係や援助活動の目的・価値・原則について、個別援助技術（ケースワーク）と集団援助技術（グループワーク）を通して学ぶ。また、相談援助における人と環境の相互作用に関する理論や様々な実践モデルや、社会福祉援助活動の共通課題（記録・評価・IT活用など）や倫理について学ぶ。

〔到達目標〕 人権尊重、権利擁護、自立支援等や、社会福祉援助技術に由来する倫理について理解し、社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則・等について理解できる。また、相談援助における人と環境の相互作用に関する理論や様々な実践モデル、相談援助における事例分析の意義や方法、および相談援助の実際について理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|--|---|
| 1 社会福祉援助活動の目的・価値・原則（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む） | 向、相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| 2 援助計画の作成、実施、評価 | 8 社会福祉援助活動の共通課題（評価の意義、目的、方法、留意点） |
| 3 人と環境の相互作用：システム理論 | 9 専門職相互による助言協力（スーパービジョン）の意義、目的、留意点、方法 |
| 4 様々な実践モデルとアプローチ：治療モデル、生活モデル | 10 専門援助技術と倫理：相談援助と個人情報の保護の意義と留意点 |
| 5 様々な実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ | 11 専門援助技術の統合化とチームによる対応 |
| 6 様々な実践モデルとアプローチ：ストレングスモデル、エンパワメントアプローチ | 12 相談援助における情報通信技術（IT）の活用
の意義と留意点と支援の概要 |
| 7 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動 | 13 事例分析（意義、目的、方法、留意点） |
| | 14 相談援助の実際（権利擁護活動を含む） |
| | 15 まとめ |

〔テキスト〕 開講時に指示する

〔参考文献〕 講義時に紹介する。

〔授業形態〕 講義

〔成績評価の方法〕 レポート 60%、平常の成績 40%

25674

㊤人間福祉特殊講義 就労支援

S 原 順子 和田 謙一郎

〔授業題目〕 対象別の就労支援制度

〔授業全体の内容の概要〕 相談援助活動における自立支援の観点から、就労支援を必要とする各種の就労支援制度の概要について学ぶ。また、就労支援に係る組織、団体及び専門職、就労支援分野との連携について学ぶ。なお、就労支援を必要とする対象別にローテーション方式の講義とする。（新国家試験に対応した講義とする）

〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 相談援助活動における自立支援の観点から、各種の就労支援制度就の概要を理解し、就労支援に係る組織・団体・専門職、就労支援分野との連携を理解できる。

〔授業計画〕

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 障がい（身体、知的、精神、以下同じ）者の雇用・就労の動向（原） | 8 （障がい者以外）雇用・就労の動向、労働施策、就労支援制度の概要（和田） |
| 2 障がい者の労働施策の概要（原） | 9 生活困窮者に対する就労支援（和田） |
| 3 障がい者福祉施策における就労支援制度の概要（原） | 10 低所得者に対する就労支援（和田） |
| 4 障がい者雇用施策の概要（原） | 11 母子家庭に対する就労支援（和田） |
| 5 障がい者の就労支援に係る組織、団体の役割と実際（原） | 12 （障がい者以外、以下同じ）就労支援に係る組織、団体の役割と実際（和田） |
| 6 障がい者の就労支援に係る専門職の役割と実際（原） | 13 就労支援に係る専門職の役割と実際（和田） |
| 7 障がい者の就労支援分野との連携と実際（原） | 14 就労支援分野との連携と実際（和田） |
| | 15 まとめ（原・和田） |

〔テキスト〕 開講時までに指示する。

〔参考文献〕 講義中適宜指示する。

〔授業形態〕 講義

〔〔単位認定の方法及び基準〕（試験やレポートの評価基準など）〕 レポート 60 %、平常の成績 40 %